

專 門 科 目

仏 教 学 科

コード	履修科目名	(担当教員)			
b21051100:	仏教学概論A	(那須 真裕美)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

インド仏教の思想・歴史を学ぶことで、仏教学学習・研究に必須の基礎的な知識を身につけ、関心ある各専門分野の学習に応用することができる。

キーワード

初期仏教、部派仏教、大乘仏教

事前・事後学習

授業終了後、各自で内容のまとめを行なうこと。

授業内容

仏教は今から約2500年前、インドの地で誕生した。だが、ひと口に「仏教」と言っても、13世紀初頭に発祥の地インドで歴史の舞台から姿を消すまでの千数百年間、インド仏教は多岐にわたる発展を遂げ、多様な思想を生み出し続けた。釈迦の教えに基づく初期仏教を出発点とし、部派仏教、大乘仏教、密教と展開する4段階のうち、本講義では初期仏教から部派仏教、そして大乘仏教へと至る大きな仏教の流れの中で、主要な思想・教学がいかんにして生まれ、いかなる役割を果たし、どのような影響を与えたのかについて学習する。思想史を中心軸とし、信仰や美術、他宗教との関連を総合的にとらえることで、各時代・各地域の仏教を学ぶ上で最たる基礎となるインド仏教の全体像を把握しよう。

成績評価方法

記述試験(60%)と平常点(出席状況、予習・復習などの授業に対する取り組み:25%、授業内容まとめやコメントシート:15%)を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

各回授業のまとめを行ない、最終授業時には全体向けにフィードバックを実施する。

授業計画

1. 仏教と仏教学
2. 仏教前夜の思想と信仰
3. 釈迦の生涯の物語
4. 初期仏教の思想(1) 初転法輪
5. 初期仏教の思想(2) 四諦八正道
6. 初期仏教の思想(3) 五蘊・無我
7. 初期仏教の思想(4) 縁起
8. 出家者のあり方、在家者のあり方
9. 仏教教団と律
10. 部派仏教の思想(1) 法とは何か
11. 部派仏教の思想(2) 世界観
12. 大乘仏教起源論
13. 覚りと仏身観
14. 仏像の誕生と展開
15. 大乘経典とは何か

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 プリント資料を配布する
- 〈参考文献〉 講義内で適宜紹介する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b21051200:	仏教学概論B	(那須 真裕美)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

インド仏教の思想・歴史を学ぶことで、仏教学学習・研究に必須の基礎的な知識を身につけ、関心ある各専門分野の学習に応用することができる。

キーワード

大乘仏教、初期密教

事前・事後学習

授業終了後、各自で内容のまとめを行なうこと。

授業内容

仏教は今から約2500年前、インドの地で誕生した。だが、ひと口に「仏教」と言っても、13世紀初頭に発祥の地インドで歴史の舞台から姿を消すまでの千数百年間、インド仏教は多岐にわたる発展を遂げ、多様な思想を生み出し続けた。釈迦の教えに基づく初期仏教を出発点とし、部派仏教、大乘仏教、密教と展開する4段階のうち、本講義では大乘仏教が育んだ主要な思想・教学を中心に学習する。大乘経典・論書に説かれた諸思想は、仏教以外の思想とも呼応して発展し、やがて密教へと結実していく。思想史を中心軸として、各時代・各地域の仏教を学ぶ上で最たる基礎となるインド仏教の全体像を把握しよう。

成績評価方法

記述試験(60%)と平常点(出席状況、予習・復習などの授業に対する取り組み:25%、授業内容まとめやコメントシート:15%)を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

各回授業のまとめを行ない、最終授業時には全体向けにフィードバックを実施する。

授業計画

1. 大乘経典概観
2. 初期大乘経典(1) 般若経典類と般若
3. 初期大乘経典(2) 『法華経』と一乗思想
4. 初期大乘経典(3) 『華嚴経』と宇宙観
5. 初期大乘経典(4) 浄土三部経と仏国土
6. 中期大乘経典: 『涅槃経』『勝鬘経』
7. 龍樹の思想的特徴(1) 空・無自性・縁起
8. 龍樹の思想的特徴(2) ことばの否定
9. 瑜伽行唯識思想(1) 阿頼耶識
10. 瑜伽行唯識思想(2) 三性三無性
11. 如来蔵思想
12. 後期大乘仏教の様相
13. インド仏教の東漸(1) 中央アジア仏教
14. インド仏教の東漸(2) 東アジア仏教
15. 全体のまとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 プリント資料を配布する
- 〈参考文献〉 講義内で適宜紹介する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b21054100:	真言学概論A～真言宗学の見方、考え方	(北尾 隆心)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

真言密教がどのような変遷を経て、「真言宗学」として確立されていったか、ということを理解する。

キーワード

真言宗、真言宗学、教相、事相、空海、最澄、金剛界、胎蔵、曼荼羅、即身成仏

事前・事後学習

講義ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み、また、授業で得たものを復習として書き込むことを中心に行うこととし、予習時間2時間30分、復習2時間を取ってもらうことが望ましい。講義ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

空海(774～835)は中国に渡って当時の最先端であった密教を請来し、日本的により発展させて真言密教を完成されました。

この真言密教の思想がどのようにして日本に根付き、発展を遂げ、そして、確立されていったか、ということ密教の歴史を通して見ると共に、その内容とその意義を明確にします。

言密教の教えは一般に「真言宗学」と呼ばれ、今日まで継承されて来ましたが、その内容は「教相(きょうそう:教理)」と「事相(じそう:実践)」とに分けられます。

本概論では、真言宗学において、教相と事相とが存立する理由を明確にすると共にそこより真言宗学が目指しているものは何か、ということを伝統的な解釈を踏まえてその本義を理解されることを目的とし、目標とします。

また、真言宗学をより理解するために天台密教、特に最澄の密教についても触れます。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 講義ノートの作成方法
真言密教の特徴 | 9. 真言密教の歴史① |
| 2. 教相と事相 | 10. 真言密教の歴史② |
| 3. 「真言」の意義 | 11. 真言密教の歴史③ |
| 4. 「曼荼羅」の見方・考え方 | 12. 中国密教と真言密教 |
| 5. 「密教」の意義 | 13. 金剛界と胎蔵界との二つの密教 |
| 6. 我々の本質とは何か(六大思想) | 14. 両部思想と両部不二思想 |
| 7. 我々の活動と仏の活動(三密思想) | 15. 即身成仏思想 |
| 8. 真言密教の目指すところ | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 適宜、プリント配布。

＜参考文献＞ 適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b21054200:	真言学概論B～即身成仏思想	(北尾 隆心)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

空海の即身成仏思想とはどのようなものであったのか、ということを理解する。

キーワード

釈迦、空海、即身成仏、「即身成仏義」

事前・事後学習

講義ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み、また、授業で得たものを復習として書き込むことを中心に行うこととし、予習時間2時間30分、復習2時間を取ってもらうことが望ましい。講義ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

真言宗、真言密教が目指すところは「即身成仏」であります。この即身成仏思想は、空海(774～835)以前に説かれてきた仏教・密教における成仏論とは一線を画しており、空海によって確立された思想と云っても過言ではありません。

本概論では、密教における釈迦の生涯の意義を明確にし、その上で、『十巻章』の一つであり、空海独自の即身成仏思想を説かれた「即身成仏義」を中心として真言宗学における即身成仏思想がどのような変遷を経て構築されたのか、ということを確認にし、そして、空海独自の「即身成仏思想」とはどのようなものであったのか、ということを確認することを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします

授業計画

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 講義ノートの作成方法
釈迦の生涯①～顕教の立場～ | 9. 『即身成仏義』の解説④ |
| 2. 釈迦の生涯②～密教の立場～ | 10. 『即身成仏義』の解説⑤ |
| 3. 真言密教における成仏論の変遷① | 11. 『即身成仏義』の解説⑥ |
| 4. 真言密教における成仏論の変遷② | 12. 『即身成仏義』の解説⑦ |
| 5. 『十巻章』と『即身成仏義』について | 13. 『即身成仏義』の解説⑧ |
| 6. 『即身成仏義』の解説① | 14. 『即身成仏義』の解説⑨ |
| 7. 『即身成仏義』の解説② | 15. 『即身成仏義』の解説⑩ |
| 8. 『即身成仏義』の解説③ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 宮坂有勝監修『空海コレクション2』ちくま学芸文庫。

適宜、プリント配布。

〈参考文献〉 適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22054100:	日本仏教史A	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

奈良・平安時代の仏教思想史の概略が理解できる

キーワード

三論宗、法相宗、華嚴宗、天台宗、真言宗、本覚思想、奈良仏教、平安仏教

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業の冒頭に行く「前回の内容の確認」に答えられるように復習すること

授業内容

日本における仏教の歴史は、千年以上の伝統を持つものである。日本仏教史では、その長い歴史を、平安仏教・鎌倉仏教の人物・思想を中心としつつ、その周辺をも含めて学んで行きたい。

春学期は奈良仏教と平安仏教を取り上げる。授業では南都六宗のうちの三論宗、法相宗、華嚴宗、および天台宗、真言宗、本覚思想について講義する。その際、奈良仏教と平安仏教の修行様式の相違と後世に及ぼした影響について言及し、さらに、日本文化の形成に果たした平安仏教の役割について説明する。また、平安時代に発生し、やはり日本文化に大きな影響を及ぼした本覚思想について説明する。

成績評価方法

平常点：50%

レポート：50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に押さえるべき重要事項を確認する

授業計画

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 奈良仏教① 三論宗 | 9. 平安仏教⑥ 真言宗 |
| 2. 奈良仏教② 法相宗 | 10. 平安仏教⑦ 真言宗 |
| 3. 奈良仏教③ 華嚴宗 | 11. 平安仏教⑧ 真言宗 |
| 4. 平安仏教① 天台宗 | 12. 日本文化の基盤としての平安仏教① |
| 5. 平安仏教② 天台宗 | 13. 日本文化の基盤としての平安仏教② |
| 6. 平安仏教③ 天台宗 | 14. 本覚思想について① |
| 7. 平安仏教④ 天台宗 | 15. 本覚思想について② |
| 8. 平安仏教⑤ 真言宗 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講師が配布する。

〈参考文献〉 講師が配布する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22054200:	日本仏教史B	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

鎌倉時代の仏教思想史が理解できる

キーワード

浄土宗、浄土真宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗、鎌倉仏教

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業の冒頭に行う「前回の内容の確認」に答えられるように復習すること

授業内容

日本における仏教の歴史は千年以上の伝統を持つものである。その長い歴史を、平安仏教・鎌倉仏教の人物・思想を中心としつつ、その周辺も含めて学んで行きたい。

秋学期は、念仏思想、禅宗、法華宗を取り上げる。鎌倉仏教の宗祖達は、本人の願いとは別に、既成の仏教勢力および国家権力と衝突して、激しい生涯を送った方々が多い。具体的には、法然、親鸞、栄西、道元、日蓮の各宗祖の生涯と思想を解説する。

成績評価方法

平常点 50%

レポート 50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に、これまでの授業内容の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に押さえるべき重要事項を確認する

授業計画

- | | |
|----------|----------|
| 1. 浄土宗① | 9. 臨済宗③ |
| 2. 浄土宗② | 10. 曹洞宗① |
| 3. 浄土宗③ | 11. 曹洞宗② |
| 4. 浄土真宗① | 12. 曹洞宗③ |
| 5. 浄土真宗② | 13. 日蓮宗① |
| 6. 浄土真宗③ | 14. 日蓮宗② |
| 7. 臨済宗① | 15. 日蓮宗③ |
| 8. 臨済宗② | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講師が配布する。

〈参考文献〉 講師が配布する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22058100:	真言宗史A	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

真言宗の存続と発展の歴史について理解し、説明することができる。

キーワード

歴史、東寺、醍醐寺、仁和寺、事相、教相

事前・事後学習

事前学習：授業で扱うテーマを参照し、寺院や人物について辞書等で下調べしておくこと。

事後学習：授業プリント(穴埋め形式)を読み返し、歴史の流れを再確認すること。

授業内容

この授業では、平安時代から明治時代にかけての真言宗の歴史について学びます。特に東寺・醍醐寺・仁和寺に注目し、事相・教相の発展と継承の歴史や、真言宗が世俗権力(天皇・将軍など)との密接な結びつきのもとで発展を遂げてきた過程をたどります。

成績評価方法

講義・意見交換等に対する取り組み50%、レポート50%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを返します

授業計画

1. イントロダクション：①自己紹介、授業の概要・方針・評価方法の説明
2. ②時代感覚をつかむ
3. 「東寺一門」としての意識
4. 「東寺一門」を支えた要件－『真言付法纂要鈔』の記述－
5. 「東寺一門」を支えた寺院－東寺・醍醐寺・仁和寺に注目して－
6. 弘法大師空海と醍醐寺①鎮護国家理念の継承
7. 弘法大師空海と醍醐寺②『御遺告』と弘法大師伝絵巻
8. 弘法大師空海と醍醐寺③御遠忌法会への出仕
9. ここまでの振り返り
10. 醍醐寺と仁和寺(論文精読)
11. 中世の仁和寺①御室の発展と法流
12. 中世の仁和寺②教学の振興(論文精読)
13. 東寺の再興と後宇多法皇
14. 東寺西院における修学
15. 東寺観智院と泉宝・賢宝
16. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 穴埋め形式のプリントを配布します。

《参考文献》 西弥生編『シリーズ中世の寺社と武士1 醍醐寺』(戎光祥出版、2018年)
西弥生著『中世密教寺院と修法』(勉誠出版、2008年)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22058200:	真言宗史B	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

真言宗の存続と発展の歴史について理解し、説明することができる。

キーワード

歴史、東寺、醍醐寺、仁和寺、事相、教相

事前・事後学習

事前学習：授業で扱うテーマを参照し、寺院や人物について辞書等で下調べしておくこと。

事後学習：授業プリント(穴埋め形式)を読み返し、歴史の流れを再確認すること。

授業内容

この授業では、平安時代から明治時代にかけての真言宗の歴史について学びます。特に東寺・醍醐寺・仁和寺に注目し、事相・教相の発展と継承の歴史や、真言宗が世俗権力(天皇・将軍など)との密接な結びつきのもとで発展を遂げてきた過程をたどります。

成績評価方法

講義・意見交換等に対する取り組み50%、レポート50%

課題に対するフィードバック

レポートにコメントを返します。

授業計画

1. イントロダクション：前期レポートの振り返り、後期の概要説明
2. 東寺観智院と勤修寺
3. 江戸時代の醍醐寺①日記から見る上醍醐の様子
4. 江戸時代の醍醐寺②聖教から見る付法活動
5. 江戸時代の醍醐寺③文書から見る庶民との関わり
6. 江戸時代の仁和寺―御室覚深法親王と顕證―
7. 江戸時代の仁和寺―御室覚深法親王と顕證―
8. 江戸時代の東寺①観智院の復興と果快・賢賀
9. 江戸時代の東寺②諸院家の盛衰
10. 明治時代の東寺①種智院大学所蔵『東寺一件』
11. 明治時代の東寺②種智院大学所蔵『東寺一件』
12. 真言宗の修法と聖教①修法と靈験
13. 真言宗の修法と聖教②聖教と秘事
14. 真言宗の修法と聖教③祖師の言説
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 穴埋め形式のプリントを配布します。

〈参考文献〉 西弥生編『シリーズ中世の寺社と武士1 醍醐寺』(戎光祥出版、2018年)

西弥生編『中世密教寺院と修法』(勉誠出版、2008年)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22060100:	法流概説A	(潮 弘憲)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

真言密教の事相と法流の歴史を学ぶ

キーワード

事相、法流、道場

事前・事後学習

事前：授業で扱う事相の概要をあらかじめ調べておく

事後：配布された資料を復習する。

授業内容

真言密教の教義は、大きく事相と教相の二に分けられる。

事相は実践的方面をさし、教相は教理を説き理論的方面をさす。

そして、その事相には、東密三十六流七十余方といわれ、多くの流派がある。

本講義では、まずその事相法流についての概要と、東密の代表的な法流の歴史ならびに真言宗の本尊について学んでいきたい。

なお、本講義の受講生は必ず大学の輪袈裟と念珠を持参すること。

成績評価方法

出席状況30%、授業に対する姿勢20%、レポート50%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業でフィードバックとしてコメントする

授業計画

1. 真言宗とは・真言密教と顕教・即身成仏
2. 事相とは
3. 法流とは・血脈・印信・付法の八祖と伝持の八祖
4. 弘法大師空海・小野方と広沢方分派の要因
5. 仁和御流・西院流・保壽院流・華藏院流・忍辱山流・伝法院流
6. /
7. 報恩院流・地藏院流・中性院流・意教流、松橋流・理性院流・随心院流・勤修寺流・安祥寺流・中院流
8. /
9. 真言宗の本尊
10. /
11. /
12. /
13. /
14. /
15. /

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 随時コピーをする。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b22060200:	法流概説B	(潮 弘憲)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

真言密教の三密行と修法と法会とを学ぶ

キーワード

三密行、修法、道場、法会

事前・事後学習

事前：授業で扱う三密行と修法等の概要をあらかじめ調べておく

事後：配布された資料を復習する。

授業内容

真言密教の法流は、古来より、三十六流七十余方といわれているが、厳密にいえばもっと多く、百余方あるといわれている。その中、本講義では、特に各法流の修法等についての異なり、真言宗の法会について学んでいきたい。なお、本講義の受講生は必ず大学の輪袈裟と念珠を持参すること。

成績評価方法

出席状況30%、授業に対する姿勢20%、レポート50%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業でフィードバックとしてコメントする

授業計画

1. 真言・印・入我我入について
2. /
3. /
4. 大法・中法・小法・普通法
5. /
6. 五種法(息災法・増益法・降伏法・敬愛法・鉤召法)
7. /
8. /
9. /
10. 各法流の道場荘厳
11. /
12. /
13. 真言宗の法会
14. /
15. /

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 随時コピーをする。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b23060100:	仏教文化学A～仏教と差別				(左右田 昌幸)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

真宗教団における「差別」に関して、歴史的なアプローチの方法が獲得できる

キーワード

差別 被差別寺院 近世真宗 本願寺

事前・事後学習

事前学習 配布する史料を読んでおくこと。歴史的にどのような「読み込み」「解釈」が可能なのか考えておくこと。

事後学習 授業で読み込んだ史料を、あらためて自分なりに読み込むこと。

授業内容

人々を救済するはず仏教、とくに近世本願寺教団は「差別」を当たり前としてしてきました。その「差別」がどのように展開し、制度化されていたのか、具体的な史料に基づいて探求します。宗祖親鸞の仏教思想よりすれば、身分差別が真宗教団において日常化していたとは考えられないはずなのですが、事実として戦国期頃より「差別」が厳然と存在していました。

研究史より出発して、具体的な「差別」事象を発掘しつつ、その歴史的特質を探ります。

成績評価方法

レポート：60%

平常点：40%

採点后、必要に応じて、レポートにコメントを付します。

課題に対するフィードバック

講義時に配布した史料は、受講生が講義時に音読・訓読します。さらに、史料を読み込んだ内容を発表します。それに対して、その都度、注意や内容理解についてフィードバックします。

授業計画

- | | | | |
|-----------|----------------|------------|-------------|
| 1. 研究史の整理 | 1、一向一揆・政治起源説 | 9. 差別の制度化 | 4、 |
| 2. 研究史の整理 | 2、被差別寺院・政治起源説 | 10. 差別の制度化 | 5、自剃刀(1) |
| 3. 研究史の整理 | 3、「部落寺院制」論の再検討 | 11. 差別の制度化 | 6、自剃刀(2) |
| 4. 研究史の整理 | 4、貧困史観の再検討 | 12. 差別の制度化 | 7、自剃刀(3) |
| 5. 研究史の整理 | 5、近世真宗史像の確認 | 13. 差別の制度化 | 8、学林への懸席(1) |
| 6. 差別の制度化 | 1、冥加金の五割増(1) | 14. 差別の制度化 | 9、学林への懸席(2) |
| 7. 差別の制度化 | 2、冥加金の五割増(2) | 15. まとめ | |
| 8. 差別の制度化 | 3、冥加金の五割増(3) | | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 テキストはなし。講義に関係する真宗関係の解読史料を、毎時箇、コピーで担当者が準備します。

《参考文献》 随時、参考文献を講義時に紹介します。

その他

講義で配布した史料を、講義時に受講生も読むこととなりますので、漢和辞典が必要になります。

コード	履修科目名				(担当教員)
b23060200:	仏教文化学B～仏教と差別				(左右田 昌幸)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

前近代の真宗教団における「差別」が、現代の真宗教団にもつながる面を持っている点について、歴史的な視線を獲得する。

キーワード

近世真宗 近代真宗 本願寺 差別 身分

事前・事後学習

事前学習 配布する史料を読んで、自分なりの解釈を考えておく

事後学習 講義時に読んだときの史料解釈にプラスできる史料の読み込み方を考えてみる

授業内容

仏教文化学Aの内容を受け継いで、近世の後期から幕末期の「差別」状況と、それに対する被差別身分の真宗僧侶や門徒による抵抗・反差別の行動、身分解放への希求の動きを史料に基づいて発掘します。さらに「解放令」以降の教団の近代化の過程では、どのような「差別」やそれに対する対抗的な動きが存在したのかを探求します。

仏教文化学Aと同様に、現代の問題でもある真宗教団の「差別」問題が、真言宗教団の歴史を考えるときの「教訓」になれば幸いであると考えています。

成績評価方法

レポート：60%

平常点：40%

採点后、必要に応じてレポートにコメントを付します。

課題に対するフィードバック

講義時に適宜、受講生を指名して、史料を読むことと解釈することを課題としてあたえるので、それに対する返答に基づいて、指導・助言をおこなう。

授業計画

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 近世の真宗教団の差別の論理 1 | 9. 一般社会の被差別寺院認識 |
| 2. 近世の真宗教団の差別の論理 2 | 10. 他宗派への「恥辱」意識1 |
| 3. 被差別寺院の動向 1 | 11. 他宗派への「恥辱」意識2 |
| 4. 被差別寺院の動向 2 | 12. 真宗と穢意識 1 |
| 5. 被差別身分の門徒の意識状況 1 | 13. 真宗と穢意識 2 |
| 6. 被差別身分の門徒の意識状況 2 | 14. 近代にむけて |
| 7. 被差別身分の門徒の意識状況 3 | 15. まとめ |
| 8. 真宗教団への視線 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 テキストはなし。真宗における関係史料を、毎時間、コピーで担当者が準備します。

〈参考文献〉 随時、参考文献を講義時に紹介します。

その他

Aと同様に、受講生が配付資料を読むことになります。その読みに対して、適宜、指導・助言をします。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b23061100:	密教文化学A	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

写本の取り扱い方・調書の取り方を身につける。

キーワード

写本、調査、調書、聖教、文書

事前・事後学習

事前学習：配布プリントに目を通しておくこと。

事後学習：授業中に調査した写本について、その内容・特徴および取り扱いの注意点などについて、再確認しておくこと。

授業内容

写本は仏教・密教の教えを継承するための媒体として重要な役割を果たしました。この授業では、本学所蔵の写本(聖教・文書の原本)等を用いて調査実習を行い、写本の取り扱い方と調査方法について「本物」を通じて学びます。写本の調査方法を身につけることで、卒業論文等の内容の幅を広げることができるとともに、寺院に伝来している写本の整理方法を身につけることができます。なお、授業内容は状況に応じて一部変更する場合があります。

成績評価方法

講義・調査実習に対する取り組み50%、授業時間内の課題提出25%、写本の取り扱いテスト25%から総合的に評価します。(オンライン授業となった場合は学期末レポートを課す可能性があります)

課題に対するフィードバック

授業時間内の提出課題に対して筆記コメントを返します。

授業計画

1. イントロダクション：自己紹介、授業の概要・方針・評価方法の説明、書物検定(クイズ)
2. 和本の保存と管理－醍醐寺の事例－
3. 和本の保存と管理－書庫の様子－
4. 写本調査にあたっての注意事項
書物のさまざまな形
5. 和紙の種類
6. 文書用調書の記入練習①後醍醐天皇の意志を伝える文書
7. 文書用調書の記入練習②土地を寄進する文書
8. 文書用調書の記入練習③誓いを立てる文書
9. 文書用調書の記入練習④東寺長者就任時の文書
10. 卷子本の取り扱い方 ①開き方・巻き戻し方
11. 卷子本の取り扱い方とテスト ②紐の扱い方
12. 聖教用調書の項目説明
13. 写本の閲覧
14. 参考文献に基づく考察(課題提出)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 プリントを配布します。

〈参考文献〉 授業中に適宜ご紹介いたします。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b23061200:	密教文化学B	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

写本の取り扱い方・調書の取り方を身につける。

キーワード

写本、調査、調書、聖教、文書

事前・事後学習

事前学習：配布プリントに目を通しておくこと。

事後学習：授業中に調査した写本について、その内容・特徴および取り扱いの注意点などについて、再確認しておくこと。

授業内容

写本は仏教・密教の教えを継承するための媒体として重要な役割を果たしました。この授業では、本学所蔵の写本(聖教・文書の原本)等を用いて調査実習を行い、写本の取り扱い方と調査方法について「本物」を通じて学びます。写本の調査方法を身につけることで、卒業論文等の内容の幅を広げることができるとともに、寺院に伝来している写本の整理方法を身につけることができます。なお、授業内容は状況に応じて一部変更する場合があります。

成績評価方法

講義・調査実習に対する取り組み70%、授業時間内の課題提出30%から総合的に評価します。(オンライン授業となった場合は学期末レポートを課す可能性があります)

課題に対するフィードバック

授業時間内の提出課題に対して筆記コメントを返します。

授業計画

1. 前期の復習：卷子本の扱い方、和紙の種類判断
2. 写本調査の実践 ①粘葉装の写本
3. 写本調査の実践 ②粘葉装の写本
4. 写本調査の実践 ③折本の写本
5. 写本調査の実践 ④折本の写本
6. 写本調査の実践 ⑤袋綴装の写本
7. 写本調査の実践 ⑥袋綴装の写本
8. 写本調査の実践 ⑦袋綴装の写本
9. 写本調査の実践 ⑧袋綴装の写本
10. 写本調査の実践 ⑨卷子装の写本
11. 写本調査の実践 ⑩卷子装の写本
12. 写本調査の実践 ⑪卷子装の写本
13. 写本調査の実践 ⑫卷子装の写本
14. 力試し(自力で調書を作成する)
15. まとめ(課題提出)

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリントを配布します。

＜参考文献＞ 授業中に適宜ご紹介いたします。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24001100:	仏教学研究1A — 『法華経』を読む—	(坂本 道生)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

『法華経』の特色、およびその中心的な諸品の内容が理解できる。

キーワード

妙法蓮華経、鳩摩羅什、天台教判、開三顕一、久遠実成、法華七喻、菩薩思想

事前・事後学習

事前：指定された範囲を事前に熟読し、教説の主旨について下調べしておくこと。

事後：講義で解説した箇所を再読し、復習したことをノートにまとめること。

授業内容

「諸経の王」とも呼ばれる法華経は、東アジアにおいて最も広く流布し、大きな影響を与えた経典と言える。

本講義では、まず『法華経』の成立とその背景について講義する。そして鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』の特色である一乗妙法・久遠実成・菩薩思想などについて解説したうえで経典を読み、諸品の内容について講義する。

成績評価方法

平常点：50% レポート：50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 法華経の成立と背景
3. 法華経の特色(1)開三顕一と久遠実成
4. 法華経の特色(2)法華七喻
5. 法華経の特色(3)菩薩思想
6. 天台大師の教相判釈
7. 経典を読む 序品・方便品
8. 譬喩品・信解品・薬草喩品・授記品
9. 化城喩品・五百弟子品・人記品
10. 法師品・見宝塔品・提婆達多品
11. 勧持品・安樂行品・湧出品
12. 寿量品・分別功德品
13. 隨喜功德品・法師功德品・不輕品・神力品・囑累品
14. 薬王品・妙音品・普門品・陀羅尼品・厳王品・勧発品
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞『法華経』上・中・下3冊 岩波文庫

＜参考文献＞ 授業時に指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24001200:	仏教学研究1B～天台宗と『法華経』	(坂本 道生)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

『法華経』の教えが理解でき、天台宗の教義が把握できる。

キーワード

法華経、五時八教、天台三大部

事前・事後学習

事前：指定された範囲を熟読しておくこと。難読語・難義語の読みや意味、さらに登場する人物についても下調べしておくこと。

事後：講義で解説した箇所を再読し、復習したことをノートにまとめること。

授業内容

天台教学は中国天台宗の大成者である天台大師智顛によって組織され、その特色は『法華経』を拠り所の一つとして釈尊以来の様々な教えと実践が総合的に構築されていることと言えよう。

本講義では、まず『法華経』の内容について講義する。そして智顛が立てた教相判釈「五時八教」と彼が説いた「天台三大部」（『法華玄義』・『法華文句』・『摩訶止観』）について講義する。さらに、伝教大師最澄の三一権実論争の資料を中心に、彼の法華経観とその教学的特徴について講義し、天台教学の理解に資したい。

成績評価方法

平常点(出席・授業態度など)：50%

レポート：50%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『法華経』の内容と教え1
3. 『法華経』の内容と教え2
4. 『法華経』の内容と教え3
5. 『法華経』の内容と教え4
6. 天台大師の生涯
7. 五時八教について1 教相判釈とは
8. 五時八教について2 五時・化儀四教とは
9. 五時八教について3 化法四教とは
10. 『法華玄義』について
11. 『法華文句』について
12. 『摩訶止観』について
13. 伝教大師の生涯
14. 伝教大師の法華経観
15. 天台法華宗開宗の理念一まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 プリントを配布する

〈参考文献〉 授業中に指示する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24002100:	仏教学研究2A～近代仏教教団の慈善事業・社会事業の研究	(宮城 洋一郎)			
単位	2	期別	春学期	学年	3年次～

到達目標

近代の仏教教団による慈善事業・社会事業を学び、社会貢献の意義を理解することができる。

キーワード

近代仏教教団 慈善事業 社会事業 民衆教化 社会貢献

事前・事後学習

配付する『原典仏教福祉』を参考に事前学習をしておく。毎回ごとの講義要約を振り返り、提示した参考文献を手がかりに事後学習する。

授業内容

近代(明治期から昭和戦前期)の仏教教団が担った慈善事業・社会事業について、歴史的背景と学術的な根拠付けを検討しながら、その実践の意義を考えていく。そこから、仏教教団がどのように一般民衆と関わり、社会貢献を果たしてきたかを明らかにして、現代社会へのつながりを展望していく。

成績評価方法

- 1)平常点：毎回の出席状況を基礎に算定(40%)
- 2)講義終了後に提出する簡易なレポート：3回程度実施(60%)

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問・意見を募り、適切に助言していく。

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. はじめに：講義の全体像を提示し、本講義のねらいを共有 | 9. 渡辺海旭と浄土宗労働共済会：その活動理念と実践内容 |
| 2. 近代社会のはじまりと近代仏教教団の成立 | 10. 仏教社会事業の理論と実践：矢吹慶輝と長谷川良信が明らかにした地平 |
| 3. 慈善事業に寄与した僧侶一戒律の実践とその教え：釈雲照、福田行誠 | 11. 仏教セツルメントの展開：佐伯祐正と林文雄の活動 |
| 4. 慈善事業に寄与した女性：颯田本真尼、奥村五百子 | 12. 西光万吉と全国水平社 |
| 5. 慈善事業に寄与した僧侶一その理念形成について一：島地黙雷、近角常観 | 13. 真言宗の社会事業(1)：祖風宣揚会と済世病院 |
| 6. 慈善事業の実践に寄与した僧侶：安達憲忠、綱脇龍妙 | 14. 真言宗の社会事業(2)：成田学園、讃岐学園 智山派・豊山派の社会事業 |
| 7. 仏教慈善事業団体(1)：福田会育児院の発足と発展 | 15. まとめ：全体の振り返りと討議・意見交換 |
| 8. 仏教慈善事業団体(2)：大日本仏教慈善会財団、大谷派慈善協会、日蓮宗慈済会 | |

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》『原典仏教福祉』（北辰堂）最初の講義に配付。
《参考文献》吉田久一、長谷川匡俊『日本仏教福祉思想史』法蔵館、2001年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24002200:	仏教学研究2B～現代仏教教団の社会福祉事業の研究	(宮城 洋一郎)			
単位	2	期別	秋学期	学年	3年次～

到達目標

現代仏教教団の社会福祉事業からその意義と可能性を考え、理解する。

キーワード

現代仏教教団の社会福祉事業、仏教徒の社会貢献、仏教徒の災害支援

事前・事後学習

授業計画に従って、関係する文献等を事前に調べておく。

配付した「講義要約」で授業を振り返り、提示された参考文献を調べて事後学習としていく。

授業内容

本講義では、仏教社会福祉の豊かな歴史を踏まえて、現代仏教教団が取り組んだ諸事業を検証していく。特に、仏教教団が現代の諸課題にどう対応したかを中心に問題点を抽出して検討していく。そこから、現代社会において仏教教団が果たすべき役割と意義を考えていく。

成績評価方法

- 1) 平常点：毎回の出席状況を基礎に算定(40%)
- 2) 講義終了後に提出する簡易なレポート：3回程度実施(60%)

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問・意見を募り、適切に助言していく。

授業計画

1. はじめに 本講義の全体像を提示し、講義に取り組むための諸準備について説明。
2. 戦後復興期の仏教教団の生活支援事業
3. 仏教教団の児童福祉事業
4. 仏教教団の高齢者福祉・障がい者福祉事業
5. 仏教教団の地域福祉事業・海外支援事業
6. 仏教教団の人権・同和問題への取り組み
7. ピハール活動の成立：「臨終行儀」からピハール活動へ
8. 臨床宗教師養成の成立と発展
9. 臓器移植問題と仏教教団
10. 仏教教団と災害支援：阪神淡路大震災への取り組み(1)
11. 仏教教団と災害支援：阪神淡路大震災への取り組み(2)
12. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(1)：関連文献と支援のフェーズ
13. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(2)：各教団の活動概要
14. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(3)：心のケアと原発への対応
15. まとめ 全体の振り返りをとおして今後の課題について意見交換する。

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業ごとに「講義要約」および「資料」を配付。

《参考文献》 長谷川匡俊編『戦後仏教社会福祉事業の歴史』法蔵館、2007年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24007100:	密教文化研究1A ～弘法大師と曼荼羅	(中村 幸子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

弘法大師が渡唐して何故に両部曼荼羅を請来されたのか、その心が理解できる。

キーワード

正系現図曼荼羅・弘法大師・護国思想・金輪聖王。

事前・事後学習

事前学習 他の講義での密教教理の基礎知識をしっかりと身に付けておくこと。

事後学習 講義内で使われた用語で不明なものは辞書でしっかり確かめておくこと。配布した資料は順にファイルして講義の度に持参し、事後、弘法大師から託された後世へのメッセージをしっかりと認識すること。

授業内容

わが国には文化財として数多くの曼荼羅が現存している。しかしどれもが色形において全く同じというわけではない。そこで弘法大師が請来された曼荼羅とはどれを指すのが、そしてそこには大師のどのような思いが込められているのかを読み解くことが目的

成績評価方法

平常点：50%(曼荼羅の流れを知るためにも欠席のないことが重要です。)

レポート：50%(曼荼羅の心が現代の我々にいかに生かすことが出来るかを考えてもらいます。)

課題に対するフィードバック

講義時間内に各自が学んだ密教観の小論文を提出。

秋学期に各自の小論文を読み上げコメントを加える。

授業計画

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 講義の概要と目的 | 9. 聖武天皇と弘法大師(金輪聖王と護国) |
| 2. 弘法大師と請来目録(入唐の目的) | 10. 弘法大師と川原寺・橘寺(曼荼羅とチマタ) |
| 3. 曼荼羅の背景(大乘経典から大日経へ) | 11. 弘法大師と乙訓寺(橘と常世の国) |
| 4. 正系現図曼荼羅の系譜(恵果和尚と護国思想) | 12. 弘法大師と当麻寺(怨霊鎮撫) |
| 5. 曼荼羅と白描画像 | 13. 江戸時代の曼荼羅(慈雲尊者と浄厳和尚) |
| 6. 曼荼羅の実作例 | 14. 御室版高雄曼荼羅(大願一門の理想) |
| 7. 弘法大師と神護寺(八幡神奉祀) | 15. 曼荼羅と不動尊(大師様不動尊の意味) |
| 8. 弘法大師と伏見稻荷大社(東寺五重塔建立) | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 適宜レジメを配布

＜参考文献＞ 中村涼應・中村幸真『正系現図曼荼羅の研究』NHK出版2010年

その他

講義内での配布資料はその都度ファイル整理しておくこと。毎回持参すること。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24007200:	密教文化研究1B～曼荼羅の構造と思想	(中村 幸子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

曼荼羅の図像がどのような教理を具現しているのかを自らの言葉で語れるように。

キーワード

中国思想・聖なる空間・装飾模様・五色の意味。

事前・事後学習

事前学習 前期の講義内容を再確認しておく。

事後学習 不明な用語等は辞書などで調べておく。

講義内で理解できなかったことは講義終了後質問する。

授業内容

弘法大師が請来された正系現図曼荼羅に描かれる色や形、装飾文様には後世に描かれた曼荼羅とは多少異なる固有のものが読みとれる。その背景には唐代における儒教・道教などの中国古代思想の文化・民俗学が反映されている。それはまた曼荼羅の聖なる空間構築のための一役をも担っている。

曼荼羅に説かれる聖なる空間を自らの心の裡に描くことができるよう理解を深める。

成績評価方法

平常点：50%（曼荼羅の流れを知るためにも欠席のないことが重要。）

レポート：50%（曼荼羅の心が現代の我々にいかに生かすことが出来るかを考えても。）

課題に対するフィードバック

前期提出の小論文を踏まえて各自の日常の仏教観、密教観の実践を考える。

講義内でその内容に対する各自の意見を述べ、他者の意見をも参考にできる場を設ける

授業計画

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 中国古代の気の思想 | 9. 曼荼羅と易経 |
| 2. 暈縹彩色と曼荼羅 | 10. 一切遍知印の意味 |
| 3. 胎蔵曼荼羅に描かれる植物 | 11. 大日如来と五智宝冠 |
| 4. 金剛界曼荼羅に描かれる植物 | 12. 金胎不二と両部曼荼羅 |
| 5. 曼荼羅に描かれる器物 | 13. 結界の文化 |
| 6. 曼荼羅と五色 | 14. 五種結界の表現 |
| 7. 曼荼羅と光明 | 15. 曼荼羅と蓮華 |
| 8. 曼荼羅と陰陽五行思想 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 適宜レジメを用意する。

〈参考文献〉 祥蕊『両部曼荼羅随聞記』

 梶尾祥雲『曼荼羅の研究』、

 中村涼應・中村幸真『正系現図曼荼羅の研究』NHK出版 2010

その他

曼荼羅図の資料は毎回持参のこと。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24011100:	事相研究A	(添野 大真)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

法衣の被着法や座法・礼法など僧侶の所作、さらには真言宗で執行される各法会について理解を深める。

キーワード

袈裟と法衣、坐法と礼法と合掌、法会、理趣三昧

事前・事後学習

事前に法式で使用したテキストである真言宗の道場荘厳を熟読し、理解を深めておく。学内行事や各法会に積極的に参加し、実地で経験と理解を深める。

授業内容

法会の被着法を実践して学習し、僧侶の所作を説明した後、現今、真言宗において最も多用される理趣三昧を始めとした様々な法会について、その歴史と内容について解説する。

成績評価方法

平常点：30%

レポート：70%

課題に対するフィードバック

授業内において質問や課題を与え、これに対する解答や解説を行う
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 法衣について
2. 法衣の被着法
3. 坐法と礼法
4. 歩行と行道
5. 十二合掌と六種拳
6. 真言宗の法会について
7. 顕立と密立
8. 理趣三昧法会について
9. 理趣三昧の歴史
10. 理趣三昧の本尊
11. 理趣三昧法会と理趣経法
12. 理趣三昧の荘厳
13. 庭儀と堂上と平座
14. 理趣三昧法会の諸役とその衣体
15. 理趣三昧法会の流れ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリント資料を随時配布

＜参考文献＞ 西院流法儀解説

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 大門寺住職 仁和寺密教学院講師

コード	履修科目名			(担当教員)	
b24011200:	事相研究B			(添野 大真)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

理趣三昧を始めとして、真言宗の寺院において厳修される年中行事の諸法会について理解を深める。

キーワード

理趣三昧、土砂加持、年中行事

事前・事後学習

事前に法式で使用したテキストである真言宗の道場荘厳を熟読し、理解を深めておく
 学内行事や各法会に積極的に参加し、実地で経験と理解を深める

授業内容

理趣三昧や土砂加持法会などの真言宗において執行される法会についての解説に加え、真言宗寺院で毎年執行される年中行事、また密教独自の法会である灌頂やそれ以外にも行われる様々な法会の意義・形式・流れを解説していく。

成績評価方法

平常点：30%

レポート：70%

課題に対するフィードバック

授業内において質問や課題を与え、これに対する解答や解説を行う
 最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 理趣三昧法会の意義と歴史
2. 理趣三昧法会の流れ
3. 理趣三昧法会の流れ
4. 土砂加持法会の典拠と意義
5. 土砂加持法会の本尊
6. 土砂加持法会と光明真言法
7. 土砂加持法会の流れ
8. 土砂加持法会の流れ
9. 大般若転読法会について
10. 大般若転読法会の流れ
11. 仏教寺院の年中行事
12. 灌頂について
13. 密教における灌頂の意義
14. 灌頂の種類
15. その他の法会

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリントを随時配布

＜参考文献＞ プリントを随時配布

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 大門寺住職 仁和寺密教学院講師

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24013100:	豊山教学史研究A	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

弘法大師空海の『十住心論』の内容とその背景が考察できる

キーワード

十住心、華嚴経、大日経、金剛頂経、空海

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読して予習すること

事後：二回目以降の授業冒頭における「前回の内容確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史研究は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて考察するものである。春学期においては『十住心論』を取り上げる。本書は天長年間(824～833)に空海が著した真言宗の宗義の綱要書である。その内容は、真言宗の由来と教義の概要を述べるにとどまらず、当時日本に存在した南都六宗と天台・真言のみならず、小乗仏教、さらには仏教以外のインドおよび中国の思想・宗教をも、密教を最上とする立場から総合的に把握し、提示したものである。本書の思想的意義を考えてみよう。テキストは『大乘仏典 日本・中国篇』（中央公論社）の第14巻の「解説」を用いる。

成績評価方法

平常点：50%レポート：50%

課題に対するフィードバック

最終授業日に、これまでの授業内容の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 秘密曼荼羅としての世界① | 9. 『大日経』世界と十住心の構造③ |
| 2. 秘密曼荼羅としての世界② | 10. 空海の危機① |
| 3. 秘密曼荼羅としての世界③ | 11. 空海の危機② |
| 4. 曼荼羅としての華嚴世界の構造① | 12. 空海の危機③ |
| 5. 曼荼羅としての華嚴世界の構造② | 13. 実在世界とその意義① |
| 6. 曼荼羅としての華嚴世界の構造③ | 14. 実在世界とその意義② |
| 7. 『大日経』世界と十住心の構造① | 15. 実在世界とその意義③ |
| 8. 『大日経』世界と十住心の構造② | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講師が準備し、配布する。

＜参考文献＞ 講師が指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b24013200:	豊山教学史研究B	(早川 道雄)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

『金剛頂経』の内容とその意義が考察できる

キーワード

五相成身観、一切義成就菩薩、五相成身観、後期密教

事前・事後学習

事前：テキストの指定範囲を熟読すること

事後：二回目以降の授業冒頭における「前回の内容確認」に答えられるよう復習すること

授業内容

豊山教学史は、弘法大師空海と真言密教の思想を豊山教学の碩学の解釈を通じて読解するものである。秋学期においては『金剛頂経』（『金剛頂一切如来真実撰大乘現証大教王経』）を取り上げる。『金剛頂経』は、真言宗の伝承においては、『大日経』と並ぶ根本経典である。本経の冒頭において、色究竟天より毘盧遮那を取り囲んで降下した一切如来は、なすべき難行をすべて成し遂げ、深い瞑想状態に入っていまや成道寸前（かつその最後の一步が踏み出せないでいる）一切義成就菩薩に対して、「五相成身観」を為すべきことを解説する。それは、自心の観察に始まり、月輪と五钴金剛杵を瞑想して、修行者と毘盧遮那との合一を行うための五段階の観法①通達菩提心②修菩提心③成金剛心④証金剛心⑤仏心円満である。その根本にあるのは、シンボル(象徴)を操作すること、すなわち、大乘仏教において要求される修行の全過程が、真言の持つ力・権能によって代替が可能だとする発想である。このような『金剛頂経』の論理を詳細な解説と共に読んで行く。

成績評価方法

平常点：50%

小テスト：50%

課題に対するフィードバック

最終授業日時に、これまでの授業内の総まとめを行って、課題レポートの作成の際に必ず押さえるべき重要事項を確認する。

授業計画

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 『金剛頂経』における密教の論理① | 9. 曼荼羅としての世界とその構造② |
| 2. 『金剛頂経』における密教の論理② | 10. 『大日経』と『金剛頂経』① |
| 3. 覚の世界と曼荼羅の世界① | 11. 『大日経』と『金剛頂経』② |
| 4. 覚の世界と曼荼羅の世界② | 12. 『大日経』と『金剛頂経』③ |
| 5. 覚の世界と曼荼羅の世界③ | 13. 現世成就という主題① |
| 6. 仏説の背後にあるもの① | 14. 現世成就という主題② |
| 7. 仏説の背後にあるもの② | 15. まとめ作業 |
| 8. 曼荼羅としての世界とその構造① | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講師が準備し、配布する。

＜参考文献＞ 講師が指示する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b25002100:	仏教学講読2A	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ①『性霊集』の中から空海の名文を見つけることができる。
- ②名文の魅力を他者に伝えるための表現力・文章力を高める。

キーワード

『性霊集』、空海、名文、表現力向上

事前・事後学習

事前学習：プリントを熟読し、名文だと思ふ部分に線を引いておくこと。
事後学習：各回のワークシートを指定されたところまで記入すること。

授業内容

空海の詩賦・上表文・書簡などを集めた『性霊集』には、多くの名文を見出すことができます。前期の授業のねらいは、①『性霊集』からさまざまな名文を見つけ、それを味わいながら自らの心や感性を磨くこと、②名文がもつ魅力を他者に伝えるための「表現力」を養うことです。テキストを読んでワークシートに名文を書き写し、感じたことや考えたことを丁寧に記入していくことで、法話にも必要な表現力・文章力を高めることができます。ただし、講読箇所は状況に応じて一部変更する場合があります。

成績評価方法

ワークシートへの取り組み 50%、意見交換に対する取り組み 20%、学期末レポート30%

課題に対するフィードバック

レポートに対して筆記コメントを返します。

授業計画

1. イントロダクション：自己紹介、授業の概要・方針と評価方法の確認
2. ①『性霊集』の概要説明、②注釈書(和本)の閲覧、③空海の名言集の紹介
3. 『性霊集』からの名文発掘①巻4 「春宮に筆を献ずる啓」
4. 『性霊集』からの名文発掘②巻1 「良相公に贈る詩」
5. 『性霊集』からの名文発掘③巻1 「良相公に贈る詩」
6. 『性霊集』からの名文発掘④巻8 「有る人、先師の為に法事を修する願文」
7. 『性霊集』からの名文発掘⑤巻8 「有る人、先師の為に法事を修する願文」
8. 『性霊集』からの名文発掘⑥巻4 「僧中環が罪を赦されんことを請う表 一首」
9. 『性霊集』からの名文発掘⑦巻4 「僧中環が罪を赦されんことを請う表 一首」
10. 『性霊集』からの名文発掘⑧巻4 「僧中環が罪を赦されんことを請う表 一首」
11. 『性霊集』からの名文発掘⑨「天長皇帝大極殿にして百僧を屈する誓の願文」
12. 『性霊集』からの名文発掘⑩「天長皇帝大極殿にして百僧を屈する誓の願文」
13. 『性霊集』からの名文発掘⑪「天長皇帝大極殿にして百僧を屈する誓の願文」
14. 名文の墨書とワークシートの完成
15. まとめ：空海の人物像について考える

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリントを配布します

＜参考文献＞ 平井有慶『空海『性霊集』に学ぶ』（大法輪閣、2011年）ほか

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b25002200:	仏教学講読2B	(西 弥生)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

①崩し字を読めるようになる。②漢文を書き下し文に直すことができる。③現代語訳ができるようになる。

キーワード

東寺文書、崩し字、書き下し、現代語訳

事前・事後学習

事前学習：次の授業で扱う文書に目を通しておくこと。

事後学習：解読できなかった文字の再確認をしておくこと。

授業内容

後期の授業では、東寺文書の原本講読を行います。崩し字で書かれた文書を解読し、書き下し文の作成と現代語訳をすることを通して、東寺について様々な観点から理解を深めていきます。崩し字や漢文体で書かれた一次資料を読みこなすことは、卒業論文の執筆をはじめとする研究活動の重要な土台となります。この授業ではそのための基礎力を培うことを目指します。なお、授業内容(取り扱う文書)は、解読の習熟度に応じて一部変更する場合があります。

成績評価方法

授業での古文書読解への取り組み50%、学期末レポート50%

課題に対するフィードバック

レポートに対して筆記コメントを返します。

授業計画

1. イントロダクション：授業の概要・方針・評価方法の再確認、前期レポートの振り返り
2. 東寺文書を読む：寺内の規則(飲酒の禁制)
3. 東寺文書を読む：御遠忌法会 of 厳修
4. 東寺文書を読む：僧官の申請
5. 東寺文書を読む：院家の相承
6. 東寺文書を読む：法流の相承
7. 東寺文書を読む：法流の相承
8. ここまでの振り返り
9. 東寺文書を読む：天皇の詔勅
10. 東寺文書を読む：天皇の詔勅
11. 東寺文書を読む：天皇の詔勅
12. 東寺文書を読む：寺内の規則(籠衆の法式)
13. 東寺文書を読む：寺内の規則(籠衆の法式)
14. 東寺文書を読む：寺内の規則(籠衆の法式)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリントを配布します

＜参考文献＞

その他

くずし字辞典(児玉幸多編『くずし字用例辞典』・同『くずし字解読辞典』等)があればご持参下さい。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b25003100:	密数学講読1A	(スダン シヤキヤ)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

『大日経』所説の思想的な知識の獲得

キーワード

密教経典、大日如来、有情(sems can)、心(sems)、煩惱、空性、三句の法門、如実知自心

事前・事後学習

講読文を予習し、講義後の内容を復習すること

授業内容

『大日経』(大毘盧遮那成仏神変加持経)はインドのタントラ分類法でいえば行タントラを代表する密教経典である。これは日本密教、特に東密家において『金剛頂経』とともに所依経典として重要視されています。とくに、本経の第1章の「住心品」には心をどう理解するかを主題とする「三句の法門」、「如実知自心」、「百六十心」など密教思想の基盤を構築する内容が説かれています。

『大日経』のサンスクリット語原典が未だ完全に発見されていないため、本講義ではチベット語訳を中心資料とし、漢文も随時参照して読み進めていきます。この経典には複数の註釈書が存在しますが、内容解説の際には、8-9世紀の密教学僧であるブツダ・グヒヤが著した註釈(チベット文)及び善無畏が著した註釈(漢文)を使用します。受講者は経典の解説を通じて本経が説く密教思想に馴染んでほしいと思います。

成績評価方法

平常点:50%、授業態度・理解力:50%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. イントロダクション | 9. 『大日経』の講読-5 |
| 2. 『大日経』の構成について | 10. 『大日経』の講読-6 |
| 3. 『大日経』とその註釈書について | 11. 『大日経』の講読-7 |
| 4. 講読する「住心品」の内容解説 | 12. 『大日経』の講読-8 |
| 5. 『大日経』の講読-1 | 13. 『大日経』の講読-9 |
| 6. 『大日経』の講読-2 | 14. 『大日経』の講読-10 |
| 7. 『大日経』の講読-3 | 15. 総括 |
| 8. 『大日経』の講読-4 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 講義中に講読するテキストを配布します。

〈参考文献〉 宮坂有勝『密教経典』講談社文庫 2011年

Sarat Chandra Das A Tibetan-English Dictionary Rinsen Book

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b25003200:	密教学講読1B				(スダン シヤキヤ)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

『大日経』所説の思想的な知識の獲得

キーワード

有情(sems can)、心(sems)、心の差別、六十心、曼荼羅、弟子・阿闍梨の性質

事前・事後学習

講読文を予習し、講義後の内容を復習すること

授業内容

『大日経』(大毘盧遮那成仏神変加持経)はインドのタントラ分類法でいえば行タントラを代表する密教経典である。日本密教、特に東密家において『大日経』は『金剛頂経』とともに所依経典として重要視されています。

密教学講読1Aに引き続き、チベット語訳を中心資料とし、漢文も随時参照しながら『大日経』の第一章「住心品」(百六十心など「心」の在り方について)に加え、「具縁品」(曼荼羅建立について)を読み進めていきます。また、密教学僧であるブツダ・グヒヤが著した註釈(チベット文)及び善無畏が著した註釈(漢文)を使用し内容解説を進めます。受講者は本経が説く密教思想に馴染んでほしいと思います。

成績評価方法

平常点:50%、授業態度・理解力:50%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. イントロダクション
講読する「住心品」及び「具縁品」の内容解説 | 9. 『大日経』を講読(続)-8 |
| 2. 『大日経』を講読(続)-1 | 10. 『大日経』を講読(続)-9 |
| 3. 『大日経』を講読(続)-2 | 11. 『大日経』を講読(続)-10 |
| 4. 『大日経』を講読(続)-3 | 12. 『大日経』を講読(続)-11 |
| 5. 『大日経』を講読(続)-4 | 13. 『大日経』を講読(続)-12 |
| 6. 『大日経』を講読(続)-5 | 14. 『大日経』を講読(続)-13 |
| 7. 『大日経』を講読(続)-6 | 15. 総括 |
| 8. 『大日経』を講読(続)-7 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講義中に講読する資料を適宜配布します。

＜参考文献＞ 宮坂宥勝『密教教典』講談社学術文庫 2011年
高橋尚夫・前田亮道『チベット語初等文法』ノンブル社 2011年
Sarat Chandra Das A Tibetan-English Dictionary Rinsen Book

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b25007100:	真言学講読1A 『声字実相義』を読む』	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

『声字実相義』の内容を理解し、素読できる。

キーワード

空海、『十卷章』、『声字実相義』、言語哲学

事前・事後学習

講義では毎回素読を行うので、講義前・後には必ず自分で素読の練習をするようにしてください(各30分程度)。

また講義後には講義の内容を自分で振り返って整理・理解し(3時間程度)、もし理解できなかったことがあれば必ず後で担当教員に質問し、講義内容を完全に理解するよう努力してください。

授業内容

真言宗において最も重視される聖典集である『十卷章』の中の一つである『声字実相義』は、同じく『十卷章』に含まれる『即身成仏義』、『吽字義』とともに『三部書』とされ、特に重要視される聖典です。本講義では日本最初の言語哲学書とも呼ばれる『声字実相義』を講読しながら密教、そして空海独自の言語哲学について学びます。

なお講義では毎回最初に受講生全員で『声字実相義』の素読を行います。

成績評価方法

平常点(毎回の素読等)50%

レポート50%

課題に対するフィードバック

レポートの評価内容について、Teams等を利用して各人にコメントします。

授業計画

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 『声字実相義』素読・解説(6) |
| 2. インドの言語哲学について | 10. 『声字実相義』素読・解説(7) |
| 3. 『十卷章』と『声字実相義』の概要 | 11. 『声字実相義』素読・解説(8) |
| 4. 『声字実相義』素読・解説(1) | 12. 『声字実相義』素読・解説(9) |
| 5. 『声字実相義』素読・解説(2) | 13. 『声字実相義』素読・解説(10) |
| 6. 『声字実相義』素読・解説(3) | 14. 『声字実相義』素読・解説(11) |
| 7. 『声字実相義』素読・解説(4) | 15. まとめ |
| 8. 『声字実相義』素読・解説(5) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 プリント配布します。

〈参考文献〉 適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b25007200:	真言学講読1B『『叶字義釈』を読む』	(松本 峰哲)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

『叶字義釈』の内容を理解し、素読できる。

キーワード

空海、『叶字義釈』、言語哲学

事前・事後学習

講義では毎回素読を行うので、講義前・後には必ず自分で素読の練習をするようにしてください(各30分程度)。

また講義後には講義の内容を自分で振り返って整理・理解し(3時間程度)、もし理解できなかったことがあれば必ず後で担当教員に質問し、講義内容を完全に理解するよう努力してください。

授業内容

真言宗において最も重視される聖典集である『十卷章』の中の一つである『叶字義釈』は、同じく『十卷章』に含まれる『即身成仏義』、『声字実相義』とともに「三部書」とされ、特に重要視される聖典です。声に焦点をあてて著された『声字実相義』と共に、文字に焦点を当てて著されたものとして空海独自の言語観が説かれています。本講義では『叶字義釈』を講読しながら密教、そして空海独自の言語哲学について学びます。

なお講義では毎回最初に受講生全員で『叶字義釈』の素読を行います。

成績評価方法

平常点(毎回の素読等)50%
レポート50%

課題に対するフィードバック

レポートの評価内容について、Teams等を利用して各人にコメントします。

授業計画

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 『叶字義釈』素読・解説(6) |
| 2. インド思想における音と文字について | 10. 『叶字義釈』素読・解説(7) |
| 3. 『十卷章』と『叶字義釈』の概要 | 11. 『叶字義釈』素読・解説(8) |
| 4. 『叶字義釈』素読・解説(1) | 12. 『叶字義釈』素読・解説(9) |
| 5. 『叶字義釈』素読・解説(2) | 13. 『叶字義釈』素読・解説(10) |
| 6. 『叶字義釈』素読・解説(3) | 14. 『叶字義釈』素読・解説(11) |
| 7. 『叶字義釈』素読・解説(4) | 15. まとめ |
| 8. 『叶字義釈』素読・解説(5) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 プリント配布します。
〈参考文献〉 適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26001010:	仏教学入門演習	(早川 道雄)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	1年次～

到達目標

仏教学関連のテキストの読解力の基礎を構築できる

キーワード

分析的読解、総合的読解

事前・事後学習

事前的学習(後期)指定されたテキストを熟読する

事後的学習(後期)自分の書いた分析的・総合的読解を担当教員の配布する模範解答と比較する

授業内容

入門演習の秋学期は、初歩的な仏教書を題材として、文章の内容を分析的および総合的に読み取り、発表する訓練を行なう。2クラスを合同にして、春学期は西が担当し、秋学期は早川が担当する。

成績評価方法

講義への参加度：50%ノート提出：50%

課題に対するフィードバック

毎回ノート提出を行ない、演習の習熟度をチェックする

授業計画

- | | |
|---------------------------------------|--------------|
| 1. イントロダクション：授業の概要・コンセプト・評価方法の説明 | 16. 発表の仕方 |
| 2. 調べ物の方法①様々な手段について説明 | 17. レポートの発表① |
| 3. 調べ物の方法②図書館での文献探し | 18. レポートの発表② |
| 4. 文献講読の方法①問いを立てる練習 | 19. レポートの発表③ |
| 5. 文献講読の方法②論文構成を考える練習 | 20. レポートの発表④ |
| 6. 発表の方法：レジユメの作成方法についての説明 | 21. レポートの発表⑤ |
| 7. 論文とは：学術論文を読む | 22. レポートの発表⑥ |
| 8. 一次資料を読む①「『性霊集』巻9「宮中の真言院の正月の御修法の奏状」 | 23. レポートの発表⑦ |
| 9. 一次資料を読む②「『性霊集』巻9「宮中の真言院の正月の御修法の奏状」 | 24. レポートの発表⑧ |
| 10. ここまでの振り返り | 25. レポートの発表⑨ |
| 11. 学生による研究発表① | 26. レポートの発表⑩ |
| 12. 学生による研究発表② | 27. レポートの発表⑪ |
| 13. 学生による研究発表③ | 28. レポートの発表⑫ |
| 14. レポートの書き方 | 29. レポートの発表⑬ |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講師が準備し、配布する。

＜参考文献＞ 必要に応じて講師が告知する。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b26001020:	仏教学入門演習		(西 弥生)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	1年次～	

到達目標

大学における勉学に関する基本的なリテラシー能力が獲得できる

キーワード

文献講読、ディスカッション、発表、小論文

事前・事後学習

事前：配布プリントに目を通しておくこと

事後：授業で取り組んだ課題の振り返り(良くできた点・より工夫できそうな点などの整理)

授業内容

仏教学科の入門演習ではありますが、春学期は「仏教」に入っていく前に、大学における勉学の土台となるリテラシー能力を獲得することを目指します。基礎の基礎からスタートするため、復習としての側面も大きくなりますが、今後、レポート作成や卒業論文の執筆を進めていく上でも重要なことを学びますので、積極的に取り組んでほしいと思います。春学期は西が担当し、秋学期は早川が担当します。なお、授業の内容は状況に応じて一部変更する場合があります。

成績評価方法

授業における課題や意見交換に対する取り組み60%、研究発表40%

課題に対するフィードバック

授業中に口頭でコメントします。

授業計画

- | | |
|--|--------------|
| 1. イントロダクション：授業の概要と評価方法の説明、大学生生活における目標設定 | 16. 発表の仕方 |
| 2. 調べ物の方法①様々な検索手段の説明 | 17. レポートの発表① |
| 3. 調べ物の方法②図書館での文献検索・辞書類の紹介 | 18. レポートの発表② |
| 4. 文献講読の方法①問いを立てる | 19. レポートの発表③ |
| 5. 文献講読の方法②立てた問いをもとに論述の流れを考える | 20. レポートの発表④ |
| 6. レジユメの作成方法、発表テーマの検討 | 21. レポートの発表⑤ |
| 7. 学術論文の精読 | 22. レポートの発表⑥ |
| 8. 一次資料の講読① | 23. レポートの発表⑦ |
| 9. 一次資料の講読② | 24. レポートの発表⑧ |
| 10. 一次資料の講読③ | 25. レポートの発表⑨ |
| 11. 学生による研究発表 | 26. レポートの発表⑩ |
| 12. 研究発表の振り返り | 27. レポートの発表⑪ |
| 13. 仏教説話に基づく講話① | 28. レポートの発表⑫ |
| 14. 仏教説話に基づく講話② | 29. レポートの発表⑬ |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ プリントを配布します。

＜参考文献＞ 授業中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)				
b26002010:	仏教学基礎演習	(今井 淨圓)				
単 位	4	期 別	通年	学 年	2年次～	

到達目標

種智院大学で研究活動をするために、基礎学力である仏教漢文を読解する力を学び、史料の調査、文献の解読、研究史の検討など、卒業論文を作成するための基礎的な技術を身につける。

キーワード

漢文の読み方、仏教の歴史、小乗、大乘、真言宗

事前・事後学習

テキストの内容を地道に予習すること。

授業内容

『八宗綱要』二巻は、東大寺の学僧・凝然が1268年(文永5)1月、故郷の伊予国円明寺で、日本における八宗について概説した著作である。序説として、仏教の法門は大小の二乗、声聞・菩薩の二蔵、經・律・論の三蔵に分類できることを述べ、日本への伝来について概説する。以下、八宗の歴史・教理について解説している。上巻では序説と俱舍宗、成実宗、律宗の三宗、下巻では法相宗、三論宗、天台宗、華嚴宗、真言宗の五宗について解説し、最後に新興の禅宗と浄土教について簡単に紹介している。春学期には上巻の序説を講読することによって、仏教学科の学生として、研究活動をするための基礎学力を養うことを目的にする。また秋学期には、下巻の真言宗の部分を輪読することによって、密教の歴史や教理への関心を深めたい。

成績評価方法

平常点:50%(出席状況。授業中の態度も評価の対象になります)演習での発表:30%(レジュメの内容、発表の仕方などを評価します)学期末テスト:20%

課題に対するフィードバック

配布した資料を解読し毎回発表してもらいます。その発表内容に対して、問題点の指摘や補足説明を行います。

授業計画

- | | | |
|------------------------|-------------------------|----|
| 1. 担当者の自己紹介と本講義の目的について | 16. 『八宗綱要』の講読 | 12 |
| 2. 辞典・年表などの工具書の紹介 | 17. 『八宗綱要』の講読 | 13 |
| 3. 『八宗綱要』の著者・凝然について | 18. 『八宗綱要』の講読 | 14 |
| 4. 『八宗綱要』の講読 | 19. 『八宗綱要』の講読 | 15 |
| 5. 『八宗綱要』の講読 | 20. 『八宗綱要』の講読 | 16 |
| 6. 『八宗綱要』の講読 | 21. 『八宗綱要』の講読 | 17 |
| 7. 『八宗綱要』の講読 | 22. 『八宗綱要』の講読 | 18 |
| 8. 『八宗綱要』の講読 | 23. 『八宗綱要』の講読 | 19 |
| 9. 『八宗綱要』の講読 | 24. 『八宗綱要』の講読 | 20 |
| 10. 『八宗綱要』の講読 | 25. 『八宗綱要』の講読 | 21 |
| 11. 『八宗綱要』の講読 | 26. 『八宗綱要』の講読 | 22 |
| 12. 『八宗綱要』の講読 | 27. 『八宗綱要』の講読 | 23 |
| 13. 『八宗綱要』の講読 | 28. 『八宗綱要』の講読 | 24 |
| 14. 『八宗綱要』の講読 | 29. 仏教学専門演習についてのゼミガイダンス | |
| 15. 春学期のまとめ | 30. 秋学期のまとめ(学期末試験について) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 龍谷大学編『講本 八宗綱要鈔』永田文昌堂【絶版】をプリントして配布します。なお、参考文献等については、最初の講義時に紹介します。

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26002020:	仏教学基礎演習	(スタン シヤキヤ)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	2年次～

到達目標

種智院大学で研究活動をするために、基礎学力である仏教漢文を読解する力を身につける。

キーワード

漢文の読み方、仏教の概論、日本の諸宗教、小乗・大乘、真言宗

事前・事後学習

テキストの内容を予習すること

授業内容

『八宗綱要』とは東大寺戒壇院の学僧・凝然が、1268年(文永5)1月、故郷の伊予国円明寺で、日本における八宗について概説した著作であり、二巻からなる。序説として、仏教の法門は大小の二乗、声聞・菩薩の二蔵、經・律・論の三蔵に大別できることを述べ、仏法の日本への伝来について概説する。以下、日本の八宗の名論に触れ、各宗の歴史・教理について解説している。上巻は序説と俱舍宗、成実宗、律宗の三宗、下巻は法相宗、三論宗、天台宗、華嚴宗、真言宗の五宗について解説し、最後に禅宗、浄土宗を簡単に紹介している。春学期には、この『八宗綱要』を講読することによって、仏教学科の学生として、研究活動をするための基礎学力を養うことを目的にする。資料の調査、文献の解読、研究史の検討など、卒業論文を作成するための基礎的な技術を身につける。秋学期には、『八宗綱要』の担当部分と、各自が選んだテーマを発表することによって、仏教学への関心を深めたい。

成績評価方法

平常点：50%(出席状況。授業中の態度も評価の対象)、演習での発表：30%(レジュメの内容、発表の仕方など評価するの対象)、学期末レポート・テスト：20%

課題に対するフィードバック

配布した資料を解読し毎回発表してもらう。発表に対して問題指摘や補足説明を行う。

授業計画

- | | | |
|------------------------|-------------------------|----|
| 1. 担当者の自己紹介と本講義の目的について | 16. 『八宗綱要』の講読 | 12 |
| 2. 辞典・年表などの工具書の紹介 | 17. 『八宗綱要』の講読 | 13 |
| 3. 『八宗綱要』の著者・凝然について | 18. 『八宗綱要』の講読 | 14 |
| 4. 『八宗綱要』の講読 | 19. 『八宗綱要』の講読 | 15 |
| 5. 『八宗綱要』の講読 | 20. 『八宗綱要』の講読 | 16 |
| 6. 『八宗綱要』の講読 | 21. 『八宗綱要』の講読 | 17 |
| 7. 『八宗綱要』の講読 | 22. 『八宗綱要』の講読 | 18 |
| 8. 『八宗綱要』の講読 | 23. 『八宗綱要』の講読 | 19 |
| 9. 『八宗綱要』の講読 | 24. 『八宗綱要』の講読 | 20 |
| 10. 『八宗綱要』の講読 | 25. 『八宗綱要』の講読 | 21 |
| 11. 『八宗綱要』の講読 | 26. 『八宗綱要』の講読 | 22 |
| 12. 『八宗綱要』の講読 | 27. 『八宗綱要』の講読 | 23 |
| 13. 『八宗綱要』の講読 | 28. 『八宗綱要』の講読 | 24 |
| 14. 『八宗綱要』の講読 | 29. 仏教学専門演習についてのゼミガイダンス | |
| 15. 春学期のまとめ | 30. 秋学期のまとめ(提出レポートの作り方) | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 龍谷大学編『講本 八宗綱要鈔』 永田文昌堂(絶版)を、プリントして配布する。
 ＜参考文献＞ 講義中にプリントして配布する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26003020:	仏教学専門演習-2	(早川 道雄)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	3年次～

到達目標

大乘仏教の起源に関する学術論文を読み、それを通して、卒業論文のテーマの方向性を決定できる

キーワード

一般向け仏教書と学問的な仏教学の論文の相違、論文の書き方、自主的なテーマ探し、研究発表

事前・事後学習

事前：論文の指定範囲を熟読すること

事後：授業の冒頭に行う「前回の内容確認」に答えられるように復習すること

授業内容

前半は大乘仏教の起源に関する学術論文を輪読して内容を把握すると同時に、自分の関心ある分野の論文を読んでみる。後半は各自、自己の関心に応じて、次年度の卒業論文作成に向けてのテーマ探究、基礎的文献の読解、研究報告などの作業を行う。テーマ探究のための自習時間も取るから、積極的に図書館やインターネットを利用して自分の関心を深めてほしい。

成績評価方法

平常点：70%

授業態度：30%

課題に対するフィードバック

後半の授業における基礎文献読解と研究範囲をフィードバック期間として、それまで学んだことを適用かつ調整して、自分のものとする

授業計画

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 演習の内容(前半)の説明 | 16. 演習の内容(後半)の説明 |
| 2. 論文輪読 | 17. テーマ探究① |
| 3. 論文輪読 | 18. テーマ探究② |
| 4. 論文輪読 | 19. テーマ探究③ |
| 5. 論文輪読 | 20. テーマ探究④ |
| 6. 論文輪読 | 21. テーマ探究⑤ |
| 7. 論文輪読 | 22. 基礎文献読解① |
| 8. 論文輪読 | 23. 基礎文献読解② |
| 9. 論文輪読 | 24. 基礎文献読解③ |
| 10. 論文輪読 | 25. 基礎文献読解④ |
| 11. 論文輪読 | 26. 研究発表① |
| 12. 論文輪読 | 27. 研究発表② |
| 13. 論文輪読 | 28. 研究発表③ |
| 14. 論文輪読 | 29. 研究発表④ |
| 15. 春学期まとめ | 30. 秋学期まとめ |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 教員が配布する

＜参考文献＞ 教員が必要に応じて告知する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26003030:	仏教学専門演習-3	(スタン シヤキヤ)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	3年次～

到達目標

卒業論文を作成するための基礎学力を身に付けること

キーワード

考える力、まとめる力、点と点(知識)を一本の線になるようにまとめること、頭の中の構想を文章化すること

事前・事後学習

関連資料を解読しまとめ、発表をすること、さらに他者の発表を聞いて、感想を述べること

授業内容

本講義では、経典、論文など学術資料の読み方や要約の仕方、更に情報・知識をどのように卒業論文に反映していくかを学びます。前期では、中期・後期密教、特にインド・チベット・ネパール密教の思想や儀礼について概観します。その後、関連する経典読誦、学術論文・専門書を読みながら、研究資料(梵・蔵・漢)の扱い方を学びます。後期では、卒業論文のテーマを探り、それを設定し、関連資料を収集し、必要とされる知識や技能を養っていきます。これは卒論作成への第一歩となります。

本講義では、各自に沿ったテーマの内容を随時発表して来ます。受講者は発表を聞くだけでなく、それに対する批評・感想を述べることを身につけて欲しいです。自らの発表に対する批評や感想を吟味し、それを自らの知識として活かし、卒業論文に反映していきます。

成績評価方法

平常点：40% 発表：60%

課題に対するフィードバック

文献資料をまとめて発表した後、それに対して問題点の指摘および補足説明を行なっていきます。

授業計画

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1. イントロダクション
卒業論文作成のために必要な資料の扱い | 16. イントロダクション
卒論作成 |
| 2. 中期・後期密教と | 17. テーマ設定の方法-1 |
| 3. インド密教の思想と儀礼 | 18. テーマ設定の方法-2 |
| 4. チベット密教の思想と儀礼 | 19. テーマ設定の方法-3 |
| 5. ネパール仏教の思想と儀礼 | 20. 資料の探し方・まとめ方-1 |
| 6. 梵・蔵・漢資を使用した仏典の解読-1 | 21. 資料の探し方・まとめ方-2 |
| 7. 梵・蔵・漢資を使用した仏典の解読-2 | 22. 資料の探し方・まとめ方-3 |
| 8. 梵・蔵・漢資を使用した仏典の解読-3 | 23. 資料の探し方・まとめ方-4 |
| 9. 梵・蔵・漢資を使用した仏典の解読-4 | 24. テーマに対する個人発表-1 |
| 10. 学術論文輪読-1 | 25. テーマに対する個人発表-2 |
| 11. 学術論文輪読-2 | 26. テーマに対する個人発表-3 |
| 12. 学術論文輪読-3 | 27. テーマに対する個人発表-4 |
| 13. 学術論文輪読-4 | 28. 卒論作成の準備-1 |
| 14. テーマ設定の方法 | 29. 卒論作成の準備-2 |
| 15. 夏休みの課題 総括 | 30. 総括 |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。講義中にプリントを配布します。

〈参考文献〉 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26003040:	仏教学専門演習-4	(西 弥生)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	3年次～

到達目標

卒業論文のテーマを自ら設定し、研究を進めていくために必要な基本的方法を修得する。

キーワード

仏教、密教、歴史、文化

事前・事後学習

事前学習：受講者自らが選んだ文献を読み進め、「研究記録」を作成する。

事後学習：「研究記録」の加筆修正

授業内容

本演習では、宗教・歴史・文化・文学をはじめとする幅広い分野を扱い、受講生の関心に沿って進めていきます。研究テーマに関する文献・論文の収集方法や分析方法、問題設定のしかた、レジュメの作成方法、発表のしかた、ディスカッションの方法などについて演習形式で学びます。

成績評価方法

演習への参加姿勢30%、研究記録30%、研究発表40%

課題に対するフィードバック

各回の授業で提出していただく「研究記録」の用紙に筆記コメントを付けて返却します。またゼミ生による毎月の発表に対しては、より研究を深めていけるよう口頭でコメントをします。なお、各回の内容については、ゼミ生の人数により一部変更となる可能性があります。

授業計画

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. イントロダクション：演習の概要と方針についての説明 | 16. 前期の振り返りと後期の目標設定 |
| 2. 各自の講読文献の選定 | 17. 文献講読と研究記録の作成 |
| 3. 発表方法についての説明 | 18. 文献講読と研究記録の作成 |
| 4. ゼミ生の研究発表 | 19. ゼミ生の研究発表 |
| 5. ゼミ生の研究発表 | 20. ゼミ生の研究発表 |
| 6. 文献講読と研究記録の作成 | 21. 文献講読と研究記録の作成 |
| 7. 文献講読と研究記録の作成 | 22. 文献講読と研究記録の作成 |
| 8. ゼミ生の研究発表 | 23. ゼミ生の研究発表 |
| 9. ゼミ生の研究発表 | 24. ゼミ生の研究発表 |
| 10. 文献講読と研究記録の作成 | 25. 文献講読と研究記録の作成 |
| 11. 文献講読と研究記録の作成 | 26. 文献講読と研究記録の作成 |
| 12. ゼミ生の研究発表 | 27. ゼミ生の研究発表 |
| 13. ゼミ生の研究発表 | 28. ゼミ生の研究発表 |
| 14. 文献講読と研究記録の作成 | 29. 卒論のテーマと構成の検討 |
| 15. 前期の振り返り | 30. 後期の振り返り |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ ゼミの共通テキストは使用しません。

講読文献は各受講生とご相談し、それぞれの関心に合わせて選定します。

＜参考文献＞ 授業中に各受講生の研究テーマに合わせて適宜ご紹介いたします。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26003050:	仏教学専門演習-5「原典を自分で読む」	(松本 峰哲)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	3年次～

到達目標

卒業論文のテーマを決め、論文執筆のための基礎能力を身につけることができる。

キーワード

サンスクリット、チベット語、漢文、原典講読

事前・事後学習

春学期は原典資料の種類や扱い方等を中心に講義しますので、特に事後学習(4時間程度)に重点を置いて、しっかりと知識を身につけてください。秋学期はサンスクリット、チベット語、漢文などで書かれた経典を受講生皆で講読するので、事前学習(4時間程度)に重点をおき、しっかりと準備をして演習に臨んでください。

授業内容

本演習では、仏教・ヒンドゥー教等の経典を原典(サンスクリット・チベット語・漢文)で自分で読み、それを元に研究を進め、最終的に卒業論文として完成させるまでの方法論を解説してゆきます。春学期は主に様々な経典の紹介と、経典の資料としての扱い方などを主なテーマとして講義し、秋学期は様々なタイプの経典を講読しながら、受講生各自が卒論で扱うテキストの選定を進めてゆきます。

成績評価方法

演習での議論に対する参加度：50%

課題に対する発表：50%

課題に対するフィードバック

演習で与えた課題については、演習内で直接指導します。また個々の受講生が扱う原典資料の内容については個別に指導します。

授業計画

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. イントロダクション～演習の進め方 | 16. イントロダクション |
| 2. 原典資料を読む意味 | 17. 原典講読 -1 |
| 3. 原典資料の紹介 -1 | 18. 原典講読 -2 |
| 4. 原典資料の紹介 -2 | 19. 原典講読 -3 |
| 5. 原典資料の紹介 -3 | 20. 原典講読 -4 |
| 6. 原典資料を扱った研究 -1 | 21. 原典講読 -5 |
| 7. 原典資料を扱った研究 -2 | 22. 原典講読 -6 |
| 8. 原典資料を扱った研究 -3 | 23. 原典講読 -7 |
| 9. 原典資料の探し方 -1 | 24. 原典講読 -8 |
| 10. 原典資料の探し方 -2 | 25. 原典講読 -9 |
| 11. 原典資料の探し方 -3 | 26. 原典講読 -10 |
| 12. 原典資料の読み方 -1 | 27. 卒論で読むテキスト選択 -1 |
| 13. 原典資料の読み方 -2 | 28. 卒論で読むテキスト選択 -2 |
| 14. 原典資料の読み方 -3 | 29. 卒論で読むテキスト選択 -3 |
| 15. 総括 | 30. 総括 |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。講義中にプリント等を配布します。

〈参考文献〉 講義中に適宜紹介します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26004020:	仏教学卒論演習-2	(早川 道雄)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次

到達目標

既存の研究論文や研究書・史料を自分なりに理解できるようになり、自己の卒論テーマについて文章表現で執筆する能力が獲得できる

キーワード

論文、目次、章節立て、資料検索、論文梗概の作成、中間発表、論題変更

事前・事後学習

事前：発表事項は、口頭で済ませようとするのではなく、必ず、メモ程度でも良いから書いてくること
事後：授業中に得た知識・知見を必ず書きとめ、論文作成の際に利用可能なように蓄積すること

授業内容

大学において学んできたことの集大成として、自分自身で研究のテーマを決めて卒業論文を執筆するが、本演習では、実際に卒業論文を執筆しながら、そこに起こる種々の問題を明確にする、学問研究上の方法論を学び取る。そして、大学四年間の集大成としての卒業論文を執筆することを最終的な目標とする。

成績評価方法

平常点50%、課題消化点50%により評価する

課題に対するフィードバック

論文題目決定・提出・変更、中間発表における梗概の作成、卒業論文の作成には、必ず事前に綿密な打ち合わせを経るようにする。

授業計画

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. タイムスケジュールの作成 | 16. 卒業論文の方向性の確認 |
| 2. 研究テーマの選定方法 | 17. 卒業論文の進行状況の確認 |
| 3. 論題の決定方法 | 18. 卒業論文の執筆方法の確認 |
| 4. 研究方法論 | 19. 卒業論文の資料確認 |
| 5. 卒業論文の執筆方法 | 20. 卒業論文の添削① |
| 6. 卒業論文の骨格の決定 | 21. 卒業論文の添削② |
| 7. 参考文献目録の作成 | 22. 卒業論文の添削③ |
| 8. 論題に基づく資料の収集と解析① | 23. 卒業論文の添削④ |
| 9. 論題に基づく資料の収集と解析② | 24. 卒業論文の添削⑤ |
| 10. 論題に基づく資料の収集と解析③ | 25. 卒業論文の添削⑥ |
| 11. 卒業論文の目次と概要作成 | 26. 卒業論文の添削⑦ |
| 12. 卒業論文中間発表準備 | 27. 卒業論文の内容の整合性の確認 |
| 13. 卒業論文中間発表 | 28. 卒業論文の最終確認 |
| 14. 卒業論文中間発表 | 29. 口頭試問の方法論① |
| 15. 卒業論文中間発表による論文の方向修正 | 30. 口頭試問の方法論② |

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 適宜プリント配布。
＜参考文献＞ 授業時に適宜指示する。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)			
b26004030:	仏教学卒論演習-3		(スダン シヤキヤ)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次	

到達目標

四年間の学習の集大成として卒業論文を執筆すること

キーワード

資料を読んでまとめること、構想を文章に起こすこと

事前・事後学習

執筆中の論文の内容を講義中に発表する際、レジュメを準備すること

授業内容

入門・基礎演習を得て、3年生の専門演習での勉強を踏まえて、確定したテーマに沿って卒業論文を執筆して行きます。

自らが設定したテーマに合わせて、資料を集め、過去の研究文献を探索し、それらをまとめて卒業論文に反映していきます。そのための準備や個人指導として中間発表などを行なっていきます。

以下に授業計画を提示しますが、演習参加者の学習状況や卒業論文の準備状況によって、「特別補習」の時間を設けたりすることなど大幅に内容を組み替える可能性もあります。

成績評価方法

平常点：50%

演習への参加度：50%

課題に対するフィードバック

テーマに応じた資料を読み解き、それをまとめて卒業論文に反映していきます。定期的に講義中に発表してもらい、それにコメントを返します。

授業計画

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 専門演習のふり返り | 16. 論文テーマ・構成・章立ての再確認(1) |
| 2. 論文テーマの再考 | 17. 論文テーマ・構成・章立ての再確認(2) |
| 3. 資料・史料・研究文献の探索と方法(1) | 18. 論文テーマ・構成・章立ての再確認(3) |
| 4. 資料・史料・研究文献の探索と方法(2) | 19. 研究・執筆の進捗状況の発表(1) |
| 5. 資料・史料・研究文献の探索と方法(3) | 20. 研究・執筆の進捗状況の発表(2) |
| 6. 論文の構成・章立て(1) | 21. 研究・執筆の進捗状況の発表(3) |
| 7. 論文の構成・章立て(2) | 22. 個人指導(1) |
| 8. 論文の構成・章立て(3) | 23. 個人指導(2) |
| 9. 中間発表の準備(1) | 24. 個人指導(3) |
| 10. 中間発表の準備(2) | 25. 個人指導(4) |
| 11. 中間発表の準備(3) | 26. 個人指導(5) |
| 12. 個人指導(1) | 27. 個人指導(6) |
| 13. 個人指導(2) | 28. 個人指導(7) |
| 14. 個人指導(3) | 29. 口頭試問の予行練習 |
| 15. 春学期のまとめ | 30. 口頭試問の予行練習 まとめ |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 特になし

＜参考文献＞ 講義中に適宜紹介します。

その他

文献を読み解き、それを卒業論文の構成に反映し、それを完成すること

コード	履修科目名	(担当教員)			
b26004040:	仏教学卒論演習-4	(西 弥生)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次

到達目標

独自性のある充実した卒業論文を完成させる。

キーワード

仏教、密教、歴史、文化

事前・事後学習

事前学習：「研究記録」の作成

事後学習：「研究記録」の作成(前期)、卒論原稿の加筆修正(後期)

授業内容

前年度の専門演習で身につけた知識や、論文執筆のための視点・方法に基づき、卒業論文を組み立てて執筆していきます。春学期は論文の全体構成を検討した上で一次資料・二次資料の収集を行い、「研究記録」の作成を進めます。また、月に1回、研究発表を行っていただきます。秋学期は卒業論文の提出を目標に、論文の執筆と添削を行います。オリジナリティーに富む充実した卒業論文の完成に向けて、計画的に研究を進めていきます。

成績評価方法

「研究記録」の作成と研究発表に対する取り組み40%、卒論執筆への取り組み60%により、総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

「研究記録」と卒論原稿に対して筆記コメントを返します。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. イントロダクション：卒論テーマの確認と全体構成の検討 | 16. イントロダクション：執筆スケジュールの確認、卒論テーマと全体構成の再確認 |
| 2. 卒論執筆ガイドの内容確認 | 17. 卒論執筆と添削-1 |
| 3. 資料収集と研究記録の作成 | 18. 卒論執筆と添削-2 |
| 4. ゼミ生の研究発表 | 19. 卒論執筆と添削-3 |
| 5. ゼミ生の研究発表 | 20. 卒論執筆と添削-4 |
| 6. ゼミ生の研究発表 | 21. 卒論執筆と添削-5 |
| 7. 資料収集と研究記録の作成 | 22. 卒論執筆と添削-6 |
| 8. ゼミ生の研究発表 | 23. 卒論執筆と添削-7 |
| 9. ゼミ生の研究発表 | 24. 卒論執筆と添削-8 |
| 10. ゼミ生の研究発表 | 25. 卒論執筆と添削-9 |
| 11. 資料収集と研究記録の作成 | 26. 卒論執筆と添削-10 |
| 12. ゼミ生の研究発表 | 27. 卒論執筆と添削-11 |
| 13. ゼミ生の研究発表 | 28. 卒論執筆と添削-12 |
| 14. ゼミ生の研究発表 | 29. 卒論の振り返り |
| 15. 前期の振り返り | 30. 口頭試問に向けての準備 |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉ゼミの共通テキストは特に設定しません。

〈参考文献〉ゼミ生の関心に合わせて適宜ご紹介します。

その他

コード	履修科目名			(担当教員)		
b26004050:	仏教学卒論演習-5 「卒業論文を作成する」			(松本 峰哲)		
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次	

到達目標

自分で原典を読み、卒業論文を作成する。

キーワード

サンスクリット、チベット語、漢文、原典講読

事前・事後学習

受講生は講義までに自身の選んだテキストの読解を進め、毎回講義でその進捗状況を報告し、講義で受けた指導を元にさらに読解をすすめるというサイクルで学習を進めてください。

授業内容

前年度の「仏教学科専門演習」で身につけた原典講読のスキルをもとに、受講生各自が選んだ原典テキストの読解を進め、卒業論文の完成を目指します。

成績評価方法

演習での議論に対する参加度：50%
課題に対する発表：50%

課題に対するフィードバック

演習で与えた課題については、演習内で直接指導します。また個々の受講生が扱う原典資料の内容については個別に指導します。

授業計画

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. イントロダクション | 16. 夏期休暇中の進捗状況の報告 |
| 2. 論文テーマの決定・確認 | 17. 個人指導・相談 -1 |
| 3. 論文の構成及び章立て-1 | 18. 個人指導・相談 -2 |
| 4. 論文の構成及び章立て-2 | 19. 個人指導・相談 -3 |
| 5. 個人指導・相談 -1 | 20. 個人指導・相談 -4 |
| 6. 個人指導・相談 -2 | 21. 個人指導・相談 -5 |
| 7. 個人指導・相談 -3 | 22. 個人指導・相談 -6 |
| 8. 個人指導・相談 -4 | 23. 個人指導・相談 -7 |
| 9. 個人指導・相談 -5 | 24. 個人指導・相談 -8 |
| 10. 個人指導・相談 -6 | 25. 個人指導・相談 -9 |
| 11. 中間発表について | 26. 個人指導・相談 -10 |
| 12. 中間発表に向けて・個人指導 | 27. 個人指導・相談 -11 |
| 13. 中間発表(予行演習) | 28. 個人指導・相談 -12 |
| 14. 中間発表 | 29. 個人指導・相談 -13 |
| 15. 総括 | 30. 総括 |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 特になし。
＜参考文献＞ 特になし。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27001100:	密教法儀A	(潮 弘憲)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

常用諸経典の読誦と解説I

キーワード

般若心経、観音経、諸真言

事前・事後学習

事前：授業で扱う経・真言の概要をあらかじめ調べておく

事後：履修した経・真言を何度も反復練習することと、配布された真言・般若心経・心経秘鍵等の解説の資料を復習する

授業内容

古義真言宗でお唱えされている常用諸経典の唱え方を中心に、それぞれの経典の概要を解説する。本講義では、仏前勤行次第・般若心経・観音経等を履修する。特に、一般壇信徒が最も多くお唱えされている般若心経の読誦を中心とし、解説も顕教的教義と弘法大師の『般若心経秘鍵』による密教的教義の二を学んでいきたい。なお、本講義の受講生は、降誕会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会への出仕10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した経・真言の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 在家勤行次第について
2. 懺悔文・三帰・三竟・十善戒・発菩提心真言・三昧耶戒真言・開経偈・般若心経・諸真言の唱え方と解説・在家勤行次第と般若心経の解説
3. /
4. /
5. /
6. /
7. /
8. /
9. /
10. /
11. 『観音経』の唱え方と解説
12. /
13. /
14. /
15. /

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 勤行法則購入に関しては別に指示する。

＜参考文献＞ 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27001200:	密教法儀B	(潮 弘憲)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

常用諸経典の読誦と解説II

キーワード

理趣経、九條錫杖、立義文、三陀羅尼

事前・事後学習

事前：授業で扱う理趣経等の概要をあらかじめ調べておく

事後：履修した理趣経等を何度も反復練習することと、配布された理趣経等の解説の資料を復習する。

授業内容

古義真言宗の僧侶がお唱えしている理趣経等常用諸経典の唱え方を中心に、それぞれの経典の概要を解説する。

本講義では、特に、真言宗で毎日のようにお唱えされている理趣経の読み方を中心にし、解説は『理趣釈経』を中心に理解する。

また、経典読誦は、ただ文字をそのまま読めばよいというのではなく、昔より伝わる口伝故実というものがある。しかし、近年、そのような大切な伝承を無視して、誤った唱え方をしている人が多い。

本講義では、その弊をなくし、正しい唱え方を習得することをも目標とする。

なお、本講義の受講生は、報恩会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会への出仕10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した理趣経等の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 理趣経の唱え方と解説
2. /
3. /
4. /
5. /
6. /
7. /
8. /
9. /
10. /
11. /
12. 立義文・九条錫杖・三陀羅尼の唱え方と解説
13. /
14. /
15. /

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 勤行法則購入に関しては別に指示する。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b27002100:	法式IA	(添野 大真)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

密教法具や供養具の意味を理解し、正しい荘厳方法が体得できる

キーワード

真言宗の世界観と本尊、須弥壇と大壇、密教法具と供養具

事前・事後学習

テキストの指定範囲を熟読し、内容を事前事後にしっかり把握しておくこと
曼荼羅や密教法具などは実際に見て、触れ、どのように荘厳するかイメージできるようにする

授業内容

真言宗の法会儀式を理解する為には、各寺院が行う年中行事を始め、様々な法会の概要を知り、それらを組み立てる基本的な知識を蓄えておかなければならない。先ず、法会並びに修法を行う道場の知識、その荘厳の意義などである。また、これらに使用される密教法具の種類等も基礎知識として必要となる。導師が修法する為に必要な供養具の荘厳方法、法会に使用される梵音具等の取り扱いや所作、意義等に関しても良く理解し、心得ておかねばならない。

成績評価方法

平常点：30%
試験：70%

課題に対するフィードバック

授業内において質問や課題を与え、これに対する解答や解説を行う
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 仏教の世界観と真言宗の本堂 | 9. 壇の種類 |
| 2. 真言宗の本尊 | 10. 大壇の荘厳 |
| 3. 両部曼荼羅と道場荘厳 | 11. 五色の意義 |
| 4. 真言宗の八祖 | 12. 密教法具について |
| 5. 日本における密教の相伝 | 13. 六種供養と六波羅蜜 |
| 6. 須弥壇の荘厳 | 14. 香花作法 |
| 7. 供養と供物台 | 15. 飲食の供養方法 |
| 8. 修法(供養法)について | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 真言宗の法式
真言宗の道場荘厳
他には随時レジュメを配布
〈参考文献〉 真言宗法儀解説、真言宗法衣法具解説

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 大門寺住職 仁和寺密教学院講師

コード	履修科目名				(担当教員)
b27002200:	法式IB				(添野 大真)
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

袈裟や法衣などの意味や被着方法を実践しながら理解を深め、真言行者としての基本的な所作や作法を解説する。

キーワード

道場荘厳、袈裟と法衣

事前・事後学習

テキストやレジュメの指定範囲を熟読し、内容を事前事後に把握する
法衣などは実際に触れる機会を多く作り、正しく被着できるようにしておく

授業内容

仏教徒の持ち物は三衣一鉢に始まるが、特に袈裟や法衣など今日でも常用するのは、その意義や歴史の変遷を踏まえ、形式や扱いに関して良く理解することが大切である。また同じく仏教徒の持ち物である大乘比丘の十八種物などについても学んでいく。また法式IAに引き続き、真言宗行者としての基本的な所作や法会を行うに際しての基本的な儀礼・作法を解説する。袈裟や法会については「法衣伝来の道」「現代各宗派の法衣」の学習ビデオを見ながら解説していく。

成績評価方法

平常点：30%
試験：70%

課題に対するフィードバック

授業内において質問や課題を与え、これに対する解答や解説を行う
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 脇机の荘厳 | 9. 袈裟と助身衣 |
| 2. 散杖について | 10. 袈裟の被着法 |
| 3. 念珠について | 11. 弘法大師空海の御請来袈裟 |
| 4. 比丘の十八物 | 12. 法衣の種類 |
| 5. 袈裟の由来と意義 | 13. 法衣の被着法 |
| 6. 袈裟の伝来 | 14. 法衣の畳み方 |
| 7. 袈裟の種類と縫い方 | 15. 法衣の畳み方② |
| 8. 袈裟の三種賤 | |

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 真言宗の法式 道場荘厳
あとは随時、授業毎にコピー資料配付。
〈参考文献〉 顕密威儀便覧・図説真言宗の法式・真言宗荘嚴全書

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 大門寺住職 仁和寺密教学院講師

コード	履修科目名				(担当教員)
b27003100:	声明IA				(潮 弘憲)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

南山進流声明の基礎

キーワード

声明の基礎、前讃、後讃

事前・事後学習

事前：授業で扱う各声明の概要をあらかじめ調べておく

事後：履修した声明を何度も反復練習する

授業内容

現在、古義真言宗の各派でお唱えされている声明は南山進流である。

本講義では、まず南山進流声明の歴史と音楽理論をしっかりと学習する。つづいて、下記の六讃(前讃・後讃は下記の六讃とは決まっておらず法会によって異なる)を学び、初心者でも前讃・後讃が確実に唱えられることを最終目標とする。

なお、古来、進流声明伝授次第では三礼より、散華より、四智梵語より始めるという三説があり、その中江戸時代の声明の大家・理峰師は散華より始められたと伝えられている。しかし、本講義では大学の御影供・降誕会出仕の折の必要性より四智梵語から始める。とくに、本講義の受講生は、降誕会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会への出仕10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した各声明の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 南山進流声明の歴史
2. 南山進流声明の音楽理論
3. 南山進流声明の音楽理論
4. 四智梵語讃
5. 四智梵語讃
6. 心略梵語讃
7. 心略梵語讃
8. 不動梵語讃
9. 不動梵語讃
10. 四智漢語讃
11. 四智漢語讃
12. 心略漢語讃
13. 心略漢語讃
14. 仏讃
15. 仏讃

※他に、6月は降誕会の声明の一部を履修する。

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 潮弘憲『理趣三昧法則』・購入に関しては別に指示する。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b27003200:	声明IB		(潮 弘憲)		
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

理趣三昧の声明

キーワード

云何唄、散華、対揚、理趣経中曲、唱礼

事前・事後学習

事前：授業で扱う各声明の概要をあらかじめ調べておく

事後：履修した声明を何度も反復練習する

授業内容

真言宗で、最も多く執り行われている法会は理趣三昧である。

本講義では、声明IAの春学期履修済みの前讃・後讃と、伽陀等を除く理趣三昧の他の全ての声明を学ぶ。

そして、声明をお唱える上で最も大切な口伝をも授受する。また、古来より反復練習の大切さが力説されてきたので、履修してきた声明の復習に重点をおき、理趣三昧の声明が確実に唱えられることを最終目標とする。

なお、本講義の受講生は、報恩会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会への出仕10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した各声明の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 理趣三昧について
2. 理趣三昧について
3. 云何唄
4. 云何唄
5. 散華
6. 散華
7. 散華
8. 対揚
9. 対揚
10. 中曲
11. 中曲
12. 中曲
13. 唱礼(五悔)
14. 唱礼(五悔)
15. 唱礼(五悔)

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 潮弘憲『理趣三昧法則』・購入に関しては別に指示する。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27003300:	声明ⅡA	(潮 弘憲)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

①弘法大師誕生会の声明 ②大般若会の声明

キーワード

伽陀、祭文、吉慶漢語、三礼、如来唄・大般若会对揚・表白

事前・事後学習

事前：授業で扱う各声明の概要をあらかじめ調べておく。

事後：履修した声明を何度も反復練習する。

授業内容

①弘法大師誕生会は、降誕会ともよばれ、毎年六月十五日、宗祖弘法大師のご誕生を奉讃する法会である。法会の次第は各寺院により、異なりがあるので、そのことも加味しながら、授業をすすめていきたい。

②大般若会は大般若経六百巻を転読する法会で、現在も宗派の別なく除災招福を祈り全国各地で盛んに執り行われている。この大般若会には、略法要と顕密合行の二箇法要の二がある。本講義では、略法要の三礼、二箇法要の如来唄・釈迦散華(対揚付)の他に、表白・神分等をお唱えする大般若法則を履修する。とくに、本講義の受講生は、降誕会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会への出仕10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した各声明の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 弘法大師誕生会について
2. 祭文・別礼伽陀
3. 讃嘆伽陀・廻向伽陀
4. 灌沐頌
5. 吉慶漢語初段・二段・三段
6. 吉慶漢語初段・四段・五段
7. 大般若会について・三礼
8. 如来唄
9. 釈迦散華・大般若会对揚
10. 釈迦散華・大般若会对揚
11. 表白
12. 表白
13. 発願・四弘・仏名・廻向・巻数
14. 結願事由・神分
15. 結願事由・神分
「声明ⅡA・ⅡB」で履修する声明は割愛する。

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 随時コピーをする。

〈参考文献〉 随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27003400:	声明ⅡB	(潮 弘憲)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

常楽会の声明

キーワード

勧請、祭文、梵音、三條錫杖、釈迦念仏、合殺、哭仏讃、舍利讃嘆

事前・事後学習

事前：授業で扱う各声明の概要をあらかじめ調べておく。

事後：履修した声明を何度も反復練習する。

授業内容

常楽会は、涅槃会、涅槃忌、仏忌とも呼ばれ、釈尊入滅の二月十五日に釈尊をおしのびいたし、報恩の誠をささげる法会である。真言宗では、古来、涅槃経等の講讃が中心であったようだが、近年、講式中心の四箇法要で、涅槃講、羅漢講、遺跡講、舍利講の四座を厳修する。本講義では、「常楽会の声明」として、涅槃講の声明を中心に履修する。なお、本講義の受講生は、報恩会に出仕することが望ましい。

成績評価方法

出席状況30%、法会に対する姿勢10%、授業に対する姿勢10%、実唱試験50%により評価する。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして授業で履修した各声明の実唱に対し善悪等をコメントする。

授業計画

1. 常楽会について
2. 勧請
3. 総礼伽陀・北方讃
4. 祭文
5. 別礼伽陀・如来唄
6. 散華(釈迦)・梵音
7. 梵音
8. 三條錫杖・仏名
9. 三條錫杖・仏名
10. 讃嘆伽陀初段・二段・三段
11. 讃嘆伽陀四段・五段
12. 涅槃講和讃
13. 釈迦念仏・駄都讃
14. 合殺・哭仏讃
15. 舍利讃嘆・奉送
*涅槃講の声明で「声明ⅠA・ⅠB」で履修する声明は割愛する。

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉【テキスト】随時コピーをする。

〈参考文献〉随時コピーをする。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27004100:	布教法A～仏教の話し方教室	(渡邊 恭章)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

布教の意義と重要性を認識し、他科目で得た知識を自身の経験に照らし、考えを表明することができる布教する上での法話内容の検討や布教技術などの知識を得て、実践できるようになる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

仏教では、まず自らが心を発して、さとりやほとけに向かうことが大事であるが、と同時に、その境地を他と共有することが必要である。そして自らが体得した仏法を言葉によって他に伝えることを布教とよび、大乘仏教では最も大切な宗教行為である。

現在の真言宗では他宗の影響を受け、明治の仏教改革以降、近代・現代の布教が発展し、教化の重要な要件となっている。

本授業では、布教の思想・意義、講話内容の選択、実践の方法論・技術などの各方面から要点を取り上げ、布教の実践に移せるよう授業していきたい。

成績評価方法

通常授業の平常点70%

布教実演の評点20%

その他の評点10%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 布教とは①
2. 布教とは②
3. 布教の要件①
4. 布教の要件②
5. 各宗各派祖師の布教①
6. 各宗各派祖師の布教②
7. 各宗各派祖師の布教③
8. 布教の種類①
9. 布教の種類②
10. 現代の布教
11. 布教の技術と話し方①
12. 布教の技術と話し方②
13. 実習・演習
14. 実習・演習
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 毎回、プリント資料を配付する。

＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27005100:	梵字悉曇IA	(添野了)			
単位	1	期別	春学期	学年	1年次～

到達目標

日本に伝わった梵字の特色を理解できる

キーワード

梵字、悉曇、空海

事前・事後学習

事前：梵字の講義については、専門用語の読み方をテキストの範囲の中から学修すること。
事後：専門用語、人物などの用語にカナを付けておくこと。

授業内容

梵字悉曇の歴史を基本において本講義を進めて行く。
講義の展開にあたっては、インドから中国を経由して、日本へ伝わった梵字の歴史を学ぶ。そのなか、とくに日本の梵字悉曇学について詳しく解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度)40%、定期試験60%により評価する。

課題に対するフィードバック

授業最終日に、全体に向けて学んだことをフィードバックできるよう、解説を加える。

授業計画

1. 梵字悉曇概説
2. インドにおける梵字悉曇の成立(1)梵字と悉曇
3. インドにおける梵字悉曇の成立(2)書体の分類
4. 中国における梵字悉曇の受容と展開(1)伝来
5. 中国における梵字悉曇の受容と展開(2)唐代の梵字悉曇
6. 日本における梵字悉曇の受容と展開(1)伝来
7. 日本における梵字悉曇の受容と展開(2)平安時代
8. 日本における梵字悉曇の受容と展開(3)平安時代
9. 日本における梵字悉曇の受容と展開(4)平安時代
10. 日本における梵字悉曇の受容と展開(5)鎌倉～室町時代
11. 日本における梵字悉曇の受容と展開(6)江戸時代
12. 日本における梵字悉曇の受容と展開(7)江戸時代
13. 日本における梵字悉曇の受容と展開(8)江戸時代
14. 日本における梵字悉曇の受容と展開(9)江戸時代
15. 日本における梵字悉曇の受容と展開(10)明治～現代

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年
《参考文献》 種智院大学密教学会編『新梵字大鑑』法蔵館 2015年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27005200:	梵字悉曇IB	(添野了)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

梵字の基本である字母を修得できる

キーワード

梵字アルファベット、文字の相承、切継(キリツギ)

事前・事後学習

事前：梵字の読み方を学習する。

事後：読み方と同時に梵字の方法を復習する。

授業内容

梵字の書法と読み方を基本において講義を進めて行く。講義の展開にあたっては、先ず、梵字字母の構成を学び、書法へと進む。到達目標は、梵字の基本筆法をしっかりと学び、読めるように指導して行く。授業計画14～15の光明真言を書けるようにしたい。本講義では梵字を実習するので、書道用具が必要である。筆、硯、文鎮、下敷等、詳しくは、授業のなかで説明する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度)40%、定期試験60%により評価する。

課題に対するフィードバック

授業中に添削をし、書き方の筆順を指導する。

授業計画

1. 梵字悉曇概説
2. 梵字悉曇の書法概説(1)字母表の構成
3. 梵字悉曇の書法概説(2)切継(文字の結合の法則)
4. 梵字悉曇の書法実習(梵字字母)1
5. 梵字悉曇の書法実習(梵字字母)2
6. 梵字悉曇の書法実習(梵字字母)3
7. 梵字悉曇の書法実習(梵字字母)4
8. 梵字悉曇の書法実習(梵字字母)5
9. 三尊仏・十三仏等種子実習1
10. 三尊仏・十三仏等種子実習2
11. 三尊仏・十三仏等種子実習3
12. 三尊仏・十三仏等種子実習4
13. 塔婆について
14. 光明真言実習1
15. 光明真言実習2

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年

＜参考文献＞ 種智院大学密教学会編『新梵字大鑑』法蔵館 2015年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27005300:	梵字悉曇IIA	(児玉 義隆)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

空海の悉曇学の理解と卒塔婆の書写ができる

キーワード

空海、安然の悉曇学、率塔婆

事前・事後学習

事前：専門用語の読み方・意味を調べておく。書法については、事前に梵字の読み方を学習しておく。
事後：専門用語の読み方・意味を記録しておく。書法については、書き方の復習を必ずする。

授業内容

梵字悉曇学史のなかから、日本梵字悉曇学の形成と相承に影響を与えた、弘法大師空海師の梵字悉曇を学ぶ。また、書法においては、率塔婆に用いる梵字を学び、そこに何が書いてあるか、さらにその意味についても解説する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度)40%、定期試験60%により評価する。

課題に対するフィードバック

授業中に実習した梵字を忘れないよう、添削しながら、指導していく。

授業計画

1. 日本梵字悉曇学史 空海
2. 率塔婆書式(1)表と裏の書き方
3. 率塔婆書式(2)十三仏種子真言概説と実習
4. 率塔婆書式(3)十三仏種子真言概説と実習
5. 率塔婆書式(4)十三仏種子真言概説と実習
6. 率塔婆書式(5)十三仏種子真言概説と実習
7. 率塔婆書式(6)十三仏種子真言概説と実習
8. 率塔婆書式(7)十三仏種子真言概説と実習
9. 率塔婆書式(8)十三仏種子真言概説と実習
10. 率塔婆書式(9)十三仏種子真言概説と実習
11. 率塔婆書式(10)十三仏種子真言概説と実習率塔婆書式
12. 率塔婆書式(8)塗塔婆実習
13. 角塔婆の書式
14. 角塔婆の実習
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年
《参考文献》 種智院大学密教学会編『新梵字大鑑』法蔵館 2015年

その他

【授業担当者の実務歴】 真言宗僧侶 永福寺住職

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27005400:	梵字悉曇ⅡB	(児玉 義隆)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

梵文般若心經の書写と朴筆を修得できる

キーワード

梵文経典、般若心經、毛筆書、朴筆梵字

事前・事後学習

事前：文字の筆順・読み方をテキストを参考にして学習しておく(般若心經)

事後：特に般若心經の梵字について読み方をノートに認め、暗記しておく。

授業内容

日本へ伝来した梵字は、当初から、毛筆と朴筆(ぼくひつ)の二つの様式がある。毛筆では、梵字で『般若心經』を写経する。

朴筆では、朴筆の基本筆法を習得してから、不動明王、釈迦如来等十三仏を中心に実習して行く。

成績評価方法

平常点40%と梵字の作品(般若心經)60%により評価する。

課題に対するフィードバック

授業中に実習した梵字を忘れないよう、添削しながら、指導していく。

授業計画

1. 梵字般若心經について
2. 梵字般若心經実習1
3. 梵字般若心經実習2
4. 梵字般若心經実習3
5. 梵字般若心經実習4
6. 梵字般若心經実習5
7. 朴筆(刷毛)筆法基本
8. 朴筆(不動・釈迦の種子)
9. 朴筆(文殊・普賢の種子)
10. 朴筆(地藏・弥勒の種子)
11. 朴筆(薬師・観音の種子)
12. 朴筆(勢至・阿弥陀の種子)
13. 朴筆(アシュク・大日・虚空蔵の種子)
14. 朴筆(不動・カンマンと般若・ヂクマンの種子)
15. 朴筆(光明真言)

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年

〈参考文献〉

その他

【授業担当者の実務歴】 真言宗僧侶 永福寺住職

コード	履修科目名			(担当教員)		
b27006100:	密教画IA ～仏画の線描			(中村 幸子)		
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～	

到達目標

線描の仏画を30枚以上完成できる

キーワード

白描画像・筆写・仏画

事前・事後学習

事前学習 可能であれば講義内だけでなく、自宅でも合同を見て書写すること。機械的な書写ではなくしっかりと線の流れを読み取ること。事後学習 描いた尊像には必ず描いた日付けを記入しクリアーファイルに丁寧に保管すること。

授業内容

本講義は俗にいう写仏ではなく、観仏という視点を持つ。仏は写すものではなく、出会うもの。自らの心の奥底に眠る仏を呼び覚ますことが目的。手先の技術の優劣を問うものではなく、仏に向かう今の自分を表現することに意味がある。

単位認定のための最低枚数は30枚程度。各自の能力に応じた授業をすすめるので、手先の技術を習得する目的ではなく、より多くの仏の姿に出会うことに主眼を置く

成績評価方法

平常点：50% 作品の完成度：50%(沢山描くことも必要ですが、一枚ずつをていねいに描くこと。)

課題に対するフィードバック

講義時間内に作品提出。返却の際にコメントをする。

授業計画

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 講義の目的と概要 | 9. 画像の各部の名称 |
| 2. 手、顔など部分図の書写 | 10. 大型尊像の書写 |
| 3. 同上 | 11. 同上 |
| 4. 同上 | 12. 同上 |
| 5. 同上 | 13. 同上 |
| 6. 尊像の書写 | 14. 同上 作品提出 |
| 7. 同上 | 15. 同上 作品提出 |
| 8. 同上 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 下絵はその都度配布

《参考文献》 中村涼應・中村幸真『仏画入門』日本放送協会

その他

全員の制作状況を見て適宜ノート講義を加える。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27006200:	密教画IB～紺紙金泥描	(中村 幸子)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

紺紙金泥描の仏画を一尊作りあげられる

キーワード

紺紙金泥描・軸表具・額装

事前・事後学習

事前学習 墨書きの練習をしっかりとしておくこと。

事後学習 金泥書が始まると一気に仕上げる必要があるので特に休まないこと。自らの貴重な記録でもある作品であり、しっかり額装して大切にすること。

授業内容

春学期で筆遣いを習得ののち、秋学期は純金泥を使って紺色の和紙の上に本格的な礼拝本尊としての仏画を描く。描く大きさは各自の希望に応じて決める。本格的な表具、額装も可能。初歩の墨書きを学んでいないと、金泥描はできないので、秋学期から初めての受講の学生は春学期の課題で学習する。

成績評価方法

平常点：50%(技術習得のためにも授業中に作品を完成させてください。)

作品の完成度：50%(情熱さえあれば何作でも描けます。)

課題に対するフィードバック

作品完成時に適宜コメントする。

授業計画

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 作業の手順説明 | 9. 下絵の転写 |
| 2. 下絵の選択、制作 | 10. 金泥で浄書 |
| 3. 下絵制作 | 11. 同上 |
| 4. 同上 | 12. 同上 |
| 5. 同上 | 13. コンパスで頭光を描く |
| 6. 紺紙の裏打ち | 14. 細部の模様を描く |
| 7. 同上 | 15. 暈しなどの仕上げ。額装 |
| 8. 紺紙に下絵の転写 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 用意された手本以外に書きたいものがあれば各自で用意する。

〈参考文献〉 中村涼應・幸真『仏画入門』淡交社

その他

なるべく密教画IAを受講済のこと。

コード	履修科目名			(担当教員)	
b27006300:	密教画ⅡA ～暈縹彩色の技法			(中村 幸子)	
単 位	1	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

仏画(日本画)の基礎的な彩色技法(暈縹彩色)を習得する

キーワード

暈縹彩色・光明・気・日本画

事前・事後学習

事前学習 仏教における暈縹彩色の基本思想と日本画顔料の解き方をしっかり身に着ける。

事後学習 描いた色彩がその都度、自らの思いと合致しているか判断し、次回の制作で修正すべきところを確認しておく。

授業内容

仏画特有の技法に暈縹彩色がある。段層的にグラデーションを表現することにより立体的に見える技法。とりわけ曼荼羅では仏の光明の表現として重要な意味を持っているので、単なる装飾技術ではなく教理の具現の技法のひとつとして学ぶ。

本講義では歴史に残る文化財には無い新たな現代の感性を加味した仏画制作を目標とする。暈縹の基礎技術を学んだ後、尊像の彩色に入る。

成績評価方法

平常点：50%

作品の完成度：50%

課題に対するフィードバック

作品完成の都度コメントする。

授業計画

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 暈縹彩色の法則 | 9. 暈縹彩色開始 |
| 2. 下絵の選択 | 10. 同上 |
| 3. 和紙に下絵の書写 | 11. 同上 |
| 4. 裏打ち作業 | 12. 同上 |
| 5. 胡粉の説き方 | 13. 同上 |
| 6. 下地塗り | 14. 同上 |
| 7. 下地塗り | 15. 同上 |
| 8. 背景の彩色 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 下絵は用意されたものを選ぶ。

〈参考文献〉 中村涼應・中村幸真『仏画入門』淡交社

その他

密教画ⅡA・ⅡBを必ず受講のこと。

コード	履修科目名				(担当教員)
b27006400:	密教画ⅡB～彩色仏画				(中村 幸子)
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

彩色仏画を一尊完成する

キーワード

礼拝本尊・彩色仏画・日本画

事前・事後学習

事前学習 暈襷彩色で学んだことを忘れず制作に取りかかる。

選んだ尊像の教理的背景をしっかり学んでおく。

事後学習 完成した尊像は二度と描けない貴重な自らの心であると認識し、生涯の心の支えとなることが望ましい。

授業内容

春学期で学んだ暈襷彩色の技法を生かした仏画制作。各自の信仰、目的に応じて自由な大きさの作品を決める。本格的なものは半年で完成できないので、時間的に余裕のある学生は次年度にまたがって制作することも可能。

成績評価方法

平常点：90%

作品の完成度：10%

課題に対するフィードバック

作品完成後にコメントする。

授業計画

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 制作内容の個別指導 | 9. 尊像の彩色 |
| 2. 資料集め | 10. 同上 |
| 3. 下絵制作 | 11. 同上 |
| 4. 用紙の準備 | 12. 同上 |
| 5. 下絵の書写 | 13. 同上 |
| 6. 下絵の書写 | 14. 同上 |
| 7. 下地塗り | 15. 同上 |
| 8. 下地の上塗り | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 下絵集から希望の尊像を選ぶ。

各自の希望に添って新たな資料を各自で調べる。

〈参考文献〉

その他

必ず密教画ⅡAを受講のこと。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27007100:	仏像彫刻IA ～仏面相を粘土で造る～木彫、地紋彫りを彫る	(長谷 法寿)			
単位	1	期別	春学期	学年	1年次～

到達目標

塑造コースでは、仏面相のモデリングが修得できる
 木彫コースでは 彫刻刀の使い方と木目を読む技術が習得できる

キーワード

木彫、塑造、彫刻の見方

事前・事後学習

事前：授業前に彫刻の手本、写真をよく観察すること。

事後：授業後に各作品の添削した所を確認すること。

授業内容

仏像の頭部を鉛筆デッサンすることにより彫刻表現と構造を観察し、粘土と紙張りで作る実習で立体感覚を習得する。

第1回講座後に各自の好みに合わせて、塑造と木彫を選択させて、第2回講座からは塑造コースと木彫コースに分けて実習する。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度)40%

学期末の制作品60%により評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 仏像彫刻の概説、仏面相を鉛筆デッサンする | 9. / |
| | 10. / |
| 2. 塑造(仏面相)と木彫(地紋彫)の制作実習 | 11. / |
| 3. 仏面相(塑造)制作と木彫(地紋彫～小仏像) | 12. / |
| 4. / | 13. / |
| 5. / | 14. / |
| 6. / | 15. 仏面相と木彫完成、次回コース選択の説明 |
| 7. / | |
| 8. / | |

テキストおよび参考文献等

<<テキスト>> 用具としてA4サイズ以上のスケッチブック、B鉛筆、鉛筆削りの他、塑造コースは一人あたりに粘土1塊、合板等で千円～3千円の材料費が予想される。木彫コースは、彫刻刀(小刀)と松材板一枚で2千円、小仏像用材は一体千円の材料費が必要となる。

<<参考文献>>

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27007200:	仏像彫刻IB ～塑造仏面相と木彫仏	(長谷 法寿)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

塑造コースでは、より写実的な表現が可能になる
木彫コースでは、基本的な小仏像を完成させられる

キーワード

小仏像、紙塑による行道面(仏面相)

事前・事後学習

事前：授業前に彫刻の手本、写真をよく観察すること。
事後：授業後に各作品の添削した所を確認すること。

授業内容

前期に行なった塑造仏面相と木彫制作実習に続いて、後期では紙塑で別のモチーフを制作するコースと、木彫を始めるコースを選択させ、木彫コースの方は、彫刻刀の使い方から実習し学期末までに小仏像を完成する事を目標とする。

成績評価方法

平常点(出席状況および授業態度)40%
学期末の制作品60%による評価。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックする。

授業計画

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 木彫仏の素材と彫刻工具について | 9. ♪ |
| 2. 木彫工具の使用実習と塑造仏制作 | 10. ♪ |
| 3. ♪ | 11. ♪ |
| 4. ♪ | 12. ♪ |
| 5. ♪ | 13. ♪ |
| 6. 小木彫仏制作と塑造仏面相制作 | 14. ♪ |
| 7. ♪ | 15. 小木彫仏と塑造仏面相の完成 |
| 8. ♪ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 用具として塑造仏コースでは材料費が1人あたり3千円程。
木彫仏コースでは彫刻刀(小刀)一本千円、彫刻用材1つ千円。

《参考文献》

その他

【講師の外部経歴】真言宗僧侶 賢劫造佛所仏師

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27010100:	仏教美術実習A～装飾写経の制作	(中村 幸子)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

般若心経の装飾写経を一枚作りあげられる

キーワード

装飾写経・創作・自心仏との出会い

事前・事後学習

事前学習 図書館で可能な限り美術全集を眺め続けること。自らの鑑識眼を養い仏教世界観の表現を模索すること。事後学習 描いた作品を絶えず客観的に見ることにより自らの足りないところを認識し、次なるステップの足がかりとする

授業内容

現代は自らの手で「もの」を作るという機会が少なくなっている。本講義では写経を通じて自らの仏教世界観を深めると同時に様々な色や形によって荘厳することを学ぶ。写経とは本来、願い事を叶えてもらうために行うものではなく、現代を生きる自分自身の祈りの形を具現することに意味がある。そこには必ず新たな自分を見出すことが出来る。絵を描く事、字を書く事が苦手な方も心配なく、是非新たな自分との出会いを求めて作品に臨むことが望ましい。画材料にかかる費用は、各自の予算に応じて作品を選ぶ。

成績評価方法

平常点：50%(欠席すると技術的についてこれなくなる。) 作品の完成度：50%(額装が出来るように完成度を高める。)

課題に対するフィードバック

作品完成時に批評する。各自の作品には表面的な技術を問うのではなく、今の自分の心を表現しているものであり、次なる心のステップへの足がかりとなる作品であることを目標としたい。

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. 講義の目的と主旨 | 9. A)般若心経書写 B)同上 |
| 2. 各自の予算に応じた作品を選ぶ
A)色鉛筆コース B)日本画コース | 10. A)仕上げ(金箔貼り付け等)完成、額に入れる
B)花鳥画に彩色 |
| 3. 各コースを選んで作業に入る
A)般若心経下絵に色鉛筆で彩色 B)和紙に罫線を引く | 11. A)十二支守り本尊を選ぶ B)同上
12. A)色鉛筆で彩色 B)同上 |
| 4. A)同上 B)和紙に罫線を引いた後、花鳥画の手本を書写 | 13. A)同上 B)同上
14. A)同上 B)装飾の仕上げ |
| 5. A)同上 B)同上 | 15. A)完成 額装 B)完成 額装 |
| 6. A)同上 B)和紙全体に地塗り彩色 | |
| 7. A)同上 B)同上 | |
| 8. A)般若心経書写 B)本紙の裏打ち、パネル貼り | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 制作下絵等は用意されたものの中から選ぶ。あるいは自身の描きたいものを描くのも可能。

〈参考文献〉 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

教材費に1,000～2,000円程度必要です。額縁代に1,000円～3,000円程度必要

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27010200:	仏教美術実習B～装飾写経の種々相	(中村 幸子)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

装飾写経(一字蓮台経)、折本装写経、卷子本写経(理趣経、阿弥陀経等)
扇子の制作

キーワード

装飾写経、理趣経、観音経、阿弥陀経、扇面写経。

事前・事後学習

事前学習 他の講義で学んだ仏教教理をしっかり身につけ、何を表現したいのかを確認し、それを基本に作品を選ぶ。

事後学習 他の学生の作品も絶えず観察して、独自の宗教観、色彩観を身につける。

授業内容

装飾写経には種々の形式があるので、各自の好みに合ったものを選ぶ。また前期仏教美術Aで完成できなかった作品を持っている者は継続して完成させる。

成績評価方法

平常点：50%(春学期に充分な技術を習得しておくことが重要。) 作品の完成度：50%(各自の創造力が重要。)

課題に対するフィードバック

作品完成時にコメントする。あくまでも自らの宗教観と布教への視点を見出すことを念頭に置く。

授業計画

1. 制作テーマを決める(制作計画表を作る。図書館その他で調べる)仏教美術A の制作途中にあるものは継続して完成させる。
2. 各自のテーマに合わせて作業に入る(A・Bのコースを選ぶ)A) 制作途中の継続 B) 新たな作品の制作過程表をつくり、提出する。
3. A) 同上 B)教材、資料の準備
4. A) 同上 B)下絵の書写
5. A) 同上 B) 下絵の書写
6. A) 新しい作品のテーマを決める。講義最終日に間に合うような作品を選ぶ。 B) 下絵の書写
7. A) 制作過程表を提出 B) 下絵の書写
8. A) 教材、資料の準備(色鉛筆でも可能) B) 下絵書写
9. A) 下絵の書写B) 下絵書写完成後、和紙を染める。
10. A) 下絵の書写 B) 和紙を染める。
11. A) 下絵に彩色 B) 本紙のパネル貼り
12. A) 下絵に彩色 B) 顔料で彩色
13. A) 下絵の彩色 B) 彩色
14. A) 写経 B) 写経
15. A) 写経完成 B) 写経完成

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 用意されたものを選ぶか、自ら資料を持ちこむことも可能。

＜参考文献＞ 中村涼應・中村幸真『装飾写経入門』NHK出版

その他

受講登録に際して必ず仏教美術実習Aを受講しておくことが望ましい。授業計画はあくまでも目安。各自の制作の進め方には遅速があるので、各自で自覚して制作に臨むこと。作品の表具、額装などには費用がかかるので計画的に作品を選ぶこと。

コード	履修科目名				(担当教員)
b27011100:	密教瞑想法A～阿字観入門				(北尾 隆心)
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

真言密教の修行方法が密教瞑想であることを理解した上で、密教瞑想の集大成である阿字観を実際に体感する。

キーワード

事相、密教瞑想、月輪観、阿息観、阿字観、坐法、呼吸法

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み、また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たこと感想を書き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらうことが望ましい。修法ノートは、随時、閲覧、提出してもらうことがあります。

授業内容

真言密教は思想だけではどうにもならないのであり、それに基づいた実践行法を実際に行うことによってこそ真言密教独自の思想が明確に理解できるように構築されている。

古くは思想を「教相(きょうそう)」と云い、実践行法を「事相(じそう)」と呼び、教相と事相とは車の両輪、鳥の両翼であると喩えて、どちらも欠けることなく必要であることを明確に説き示してきたのであります。

本講では、真言密教の実践行法、事相の中核である密教瞑想の思想(観法)を解き明かすと共に、誰でもが行うことが可能なように創意工夫された最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立された「阿字観」の思想を理解した上で「阿字観」を体感することにより、真言密教、そして、仏そのものを味わっていただくことをことを目的とし、目標とします。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. ノートの作成方法
密教の目指すところ | 9. 阿字観の系譜(金剛界の阿字観・胎藏界の阿字観) |
| 2. 密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 10. 阿字観の本尊について |
| 3. 密教の修行方法① | 11. 阿字観を実習するための解説① |
| 4. 密教の修行方法② | 12. 阿字観を実習するための解説② |
| 5. 密教瞑想の実習① | 13. 阿字観の実習① |
| 6. 密教瞑想の実習② | 14. 阿字観の実習② |
| 7. 密教の本尊観 | 15. 阿字観の実習③ |
| 8. 阿字観について | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 テキストについては授業にて指示します。

適宜、プリント配布。

〈参考文献〉 北尾隆心著『密教瞑想入門-阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。

適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27011200:	密教瞑想法B～第二段階・第三段階へと進化した阿字観	(北尾 隆心)			
単位	1	期別	秋学期	学年	1年次～

到達目標

阿字観とは誰でもが行うことのできる密教瞑想法であり、第一段階の阿字観から第二、第三段階へと進化した阿字観を行うことにより、密教瞑想の深遠さを理解する。

キーワード

密教瞑想、阿字観、本尊、呼吸法、深秘釈、広観、斂観、字輪観

事前・事後学習

修法ノートを作成し、そこに予習したものを書き込み。また、授業で得たものを復習として書き込むと共に予習・復習において実際に密教瞑想を行い、そこで得たこと of 感想を書き込む。予習時間30分、復習1時間を取ってもらいたい。修法ノートは随時、閲覧、提出してもらいたい。

授業内容

密教瞑想(観法)とは、すべての密教の修行体系の骨格をなすものであります。何故に密教瞑想が重要なのか、ということを確認すると共に密教瞑想を体感してもらいたいことを目的とします。密教瞑想の中において誰もが行うことができ、最もシンプルで密教瞑想の集大成として確立され、そして、得られる境地が最も深いとされる「阿字観」を取り上げ、阿字観のテキスト(次第)を分析することにより密教瞑想の構造を理解してもらった上で、第二、第三段階へと進化した阿字観を行ってもらい、真言密教、そして、仏そのものを味わっていただくことを目標とします。また、850有余年を経て復興した胎蔵界阿字観も紹介します。

成績評価方法

平常点50%、レポート50%により評価します。

課題に対するフィードバック

課題として提出されたものにはコメントを付けてお返しします。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1. ノートの作成方法 密教の修行方法と密教瞑想の意義 | 9. 阿字観本尊の立体化
第二段階の阿字観の実習① |
| 2. 阿字観について | 10. 第二段階の阿字観の実習② |
| 3. 阿字観と呼吸法 | 11. 第二段階の阿字観の実習③ |
| 4. 阿字観の本尊 | 12. 広観・斂観について
第三段階の阿字観の実習① |
| 5. 阿字観を実習するための解説① | 13. 第三段階の阿字観の実習② |
| 6. 阿字観を実習するための解説② | 14. 阿字観の阿字の立体化
第三段階の阿字観の実習③ |
| 7. 第一段階の阿字観の実習① | |
| 8. 第一段階の阿字観の実習② | 15. 金剛界の阿字観・胎蔵界の阿字観について |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》テキストについては授業にて指示します。適宜、プリント配布。

《参考文献》北尾隆心著『密教瞑想入門-阿字観の原典を読む』(大法輪閣)。適宜、指示します。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27012100:	書道実習A	(那須 真裕美)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

実践としての書法と教養としての知識の両面が身につき、実用書に活用することができる。

キーワード

運筆法、楷書、隸書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認しておくこと。

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、楷書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。受講にあたっては書道経験の有無やその習熟度合いにこだわらず、講義では資料や動画も活用しながら各自にあわせた指導を行うため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。
(※初回授業は講義形式で実施するため、書道用具は第2回授業より使用する)

成績評価方法

平常点(授業への取り組みや出席状況。40%)と提出作品(60%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出作品についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする。

授業計画

1. 初回ガイダンス(楷書の特色・書道用具について)
2. 楷書の基本的運筆(六朝楷書)
3. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(1)
4. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(2)
5. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(3)
6. 欧陽詢 九成宮醴泉銘(4)
7. 虞世南 孔子廟堂碑(1)
8. 虞世南 孔子廟堂碑(2)
9. 虞世南 孔子廟堂碑(3)
10. チョ遂良 雁塔聖教序(1)
11. チョ遂良 雁塔聖教序(2)
12. チョ遂良 雁塔聖教序(3)
13. 顔真卿 多宝塔碑
14. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(1)
15. 隸書の基本的運筆(曹全碑)(2)

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 講義時にプリントを配布する
- ＜参考文献＞ 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

書道用具の一括購入は行なわないので、手持ちの用具があればメンテナンスして使用してください。(初回授業で説明します)

コード	履修科目名	(担当教員)			
b27012200:	書道実習B	(那須 真裕美)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

実践としての書法と教養としての知識の両面が身につき、実用書に活用することができる。

キーワード

運筆法、行書、草書

事前・事後学習

授業中に配布したプリント資料を、毎回の授業後に熟読して内容確認しておくこと。

授業内容

古来、日本でも範とされた中国の古典書法の歴史と特徴を知り、行・草書を中心に先人の書を学ぶ。今後の実践に活かすことができるよう、臨書を通じて教養・知識と運筆・用筆(筆の運び)の両面を身につけることを目的とする。受講にあたっては書道経験の有無やその習熟度合いにこだわらず、講義では資料や動画も活用しながら各自にあわせた指導を行うため、受講者には書道への興味と意欲をもって受講されることを希望する。

(※初回授業は講義形式で実施するため、書道用具は第2回授業より使用する)

成績評価方法

平常点(授業への取り組みや出席状況。40%)と提出作品(60%)から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

提出作品についての講評を、次回授業時に全体向けにフィードバックし、必要に応じて各自にコメントする。

授業計画

1. 初回ガイダンス(行草書の特徴・書道用具について)
2. 行・草書の基本的運筆(1・蘭亭叙)
3. 行・草書の基本的運筆(2・興福寺断碑)
4. 王羲之 集字聖教序(行書)(1)
5. 王羲之 集字聖教序(行書)(2)
6. 王羲之 蘭亭序(行書)(1)
7. 王羲之 蘭亭序(行書)(2)
8. 王羲之 蘭亭序(行書)(3)
9. 王羲之 十七帖(草書)(1)
10. 王羲之 十七帖(草書)(2)
11. 孫過庭 書譜(草書)(1)
12. 孫過庭 書譜(草書)(2)
13. 唐代の行草書(顔真卿)
14. 日本・平安時代の行草書(空海)(1)
15. 日本・平安時代の行草書(空海)(2)

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 講義時にプリントを配布する

＜参考文献＞ 必要に応じて、講義内で適宜紹介する

その他

書道用具の一括購入は行なわないので、手持ちの用具があればメンテナンスして使用してください。(初回授業で説明します)